

北海道農事試験場業務概要

昭和六年

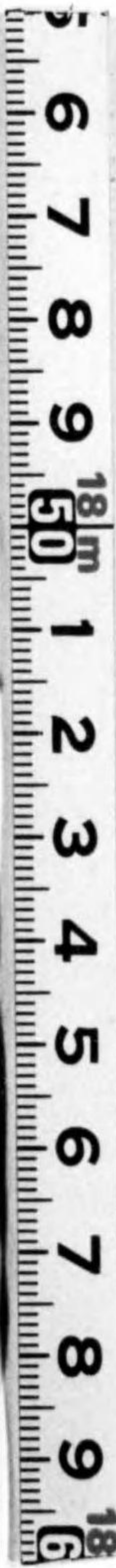
14.21

801

14.21-801



1200501163643



始



14.2  
801

昭和六年業務概要

北海道農事試驗場

本篇には北海道農事試験場本、支場、廳立農事試作場、原種圃及採種圃、採種圃監督、原蠶種製造、模範果樹園、農林省委託水稲新品種育成試験竝に農林省委託小麥地方的試験に於ける昭和六年一月より同年十二月に至る業務の概要を登載す



北海道農事試験場

14.21-801



# 昭和六年北海道農事試験場業務概要

## 目次

### 北海道農事試験場(本場)

第一 試験及調査.....	一
一 種藝に関する試験及調査.....	一
二 園藝に関する試験及調査.....	四
三 土性及施肥標準に関する試験及調査.....	六
四 土壤肥料に関する試験及調査.....	一〇
五 火山灰地に関する試験及調査.....	一二
六 泥炭地に関する試験及調査.....	一四
七 農産製造に関する試験及調査.....	一六
八 糖業に関する試験及調査.....	一七
九 栽桑及育蠶に関する試験及調査.....	一九
一〇 病理に関する試験及調査.....	二一
一一 昆蟲に関する試験及調査.....	二二
一二 農業経営試験及模範経営.....	二四
一三 委託試験.....	二七
第二 品種改良.....	二八



- 一 品種改良に関する試験.....二八
- 二 種苗配付.....三一
- 第三 普及事業.....三二
  - 一 印刷物の刊行及配付.....三二
  - 二 農事教習生の養成.....三四
  - 三 試験成績普及及奨励用映畫の作製.....三五
  - 四 講習講話、その他.....三五
  - 五 參觀人.....三六
  - 六 參觀デ.....三六
  - 七 質疑 應答.....三六
- 第四 其の他の事業.....三七
  - 一 依頼分析.....三七
  - 二 見本園.....三七

上川支場

- 第一 試験及調査.....三九
  - 一 種藝に関する試験及調査.....三九
  - 二 土壤肥料に関する試験及調査.....四〇
  - 三 病害蟲に関する試験及調査.....四一
  - 四 農業經營試験.....四一
  - 五 委託試験.....四二
- 第二 品種改良.....四二

- 一 品種改良に関する試験.....四二
- 二 種苗配付.....四二
- 第三 普及事業.....四三
  - 一 農業練習生の養成.....四三
  - 二 講習講話、その他.....四三
  - 三 參觀人.....四三
  - 四 質疑 應答.....四四

十勝支場

- 第一 試験及調査.....四五
  - 一 種藝に関する試験及調査.....四五
  - 二 土壤肥料に関する試験及調査.....四七
  - 三 病害蟲に関する試験及調査.....四八
  - 四 水田漏洩水に関する試験及調査.....四八
  - 五 高丘地に関する試験及調査.....四九
  - 六 糖業に関する試験及調査.....五〇
  - 七 農業經營試験.....五二
  - 八 委託試験.....五二
- 第二 品種改良.....五二
  - 一 品種改良に関する試験.....五二
  - 二 種苗配付.....五三
- 第三 普及事業.....五三

一	農業練習生の養成	五三
二	講習講話、その他	五四
三	參觀 人	五四
四	質疑 應答	五四

北見支場

第一	試験及調査	五五
一	種藝並に園藝に関する試験及調査	五五
二	土壤肥料に関する試験及調査	五七
三	病害蟲に関する試験及調査	五八
四	糖業に関する試験及調査	五九
五	農業經營試験	五九
六	委託試験	六〇
第二	品種改良	六一
一	品種改良に関する試験	六一
二	種苗配付	六一
第三	普及事業	六一
一	農業練習生の養成	六二
二	講習講話、その他	六二
三	參觀 人	六二
四	質疑 應答	六二

渡島支場

第一	試験及調査	六三
一	種藝並に園藝に関する試験及調査	六三
二	土壤肥料に関する試験及調査	六五
三	病害蟲に関する試験及調査	六六
四	委託試験	六六
第二	品種改良	六七
一	品種改良に関する試験	六七
二	種苗配付	六七
第三	普及事業	六八
一	農業練習生の養成	六八
二	講習講話、その他	六八
三	參觀 人	六八
四	質疑 應答	六八

根室支場

第一	試験及調査	六九
一	種藝に関する試験及調査	六九
二	土壤肥料に関する試験及調査	七一
三	病害蟲に関する試験及調査	七一
四	農業經營試験	七二
五	委託試験	七二
第二	品種改良	七二

六

- 一 品種改良に關する試験.....七二
- 二 種苗配付.....七三
- 第三 普及事業.....七三
  - 一 農業練習生の養成.....七三
  - 二 講習講話、其他.....七三
  - 三 參觀人.....七三
  - 四 質疑應答.....七四

檜山農事試作場

- 第一 模範經營.....七五
- 第二 試験及調査.....七五
- 第三 指 導.....七六

俱知安農事試作場

- 第一 模範經營.....七九
- 第二 試験及調査.....七九
- 第三 指 導.....八〇

釧路農事試作場

- 第一 模範經營.....八三
- 第二 試験及調査.....八三
- 第三 指 導.....八四

美深農事試作場

- 第一 模範經營.....八七
- 第二 試験及調査.....八七
- 第三 指 導.....八八

天鹽農事試作場

- 第一 模範經營.....九一
- 第二 試験及調査.....九一
- 第三 指 導.....九二

瀬棚農事試作場

- 第一 模範經營.....九五
- 第二 模範經營.....九五
- 第三 試験及調査.....九六
- 第四 指 導.....九六

日高農事試作場

- 第一 模範經營.....九九
- 第二 試験及調査.....九九
- 第三 指 導.....一〇〇

稚内農事試作場

第一 模範作	.....	一〇三
第二 試驗及調査	.....	一〇三
第三 指導	.....	一〇四
美瑛農事試作場		
第一 模範經營	.....	一〇七
第二 試驗及調査	.....	一〇七
第三 指導	.....	一〇八
原種圃及採種圃		
一 米、麥、小麥原種圃	.....	一一一
二 雜穀馬鈴薯原種圃	.....	一一一
三 茶種採種圃	.....	一一一
採種圃監督	.....	一一二
原蠶種製造	.....	一一三
模範果樹園(渡島支場)	.....	一一四
農林省委託水稻新品種育成試驗(上川支場)	.....	一一五
農林省委託小麥地方的試驗(本場及北見支場)	.....	一一六
		一一七

昭和六年業務概要



北海道農事試験場 (本場)

第一 試驗及調査

本年施行せる試驗及調査の大要左の如し

試驗及調査の種類	種類數	區數	模範及圓場	植木	鉢	室内
種藝に關する試驗及調査	一五	三二二				
園藝に關する試驗及調査	二五	二七				
土性並に施肥標準に關する試驗及調査	二二	二一五				
土壤肥料に關する試驗及調査	一五	二〇三	三			
火山灰地に關する試驗及調査	四一	三八三				
泥炭地に關する試驗及調査	六二	四九三				
農産製造に關する試驗及調査	一六	一五七				
糖業に關する試驗及調査	一四	一五	九			
栽桑育蠶に關する試驗及調査	一〇	八三				
病理に關する試驗及調査						
						六〇



昆蟲に關する試験及調査	一五	五							
農業經營試驗及模範經營	三一	九二六	四六						
委託試驗	二四一	二、八七〇		二	八				
計				一四	四〇四	五七	八七一	五	六〇

## 一 種藝に關する試験及調査

本年冬季の氣温は平年に比し稍低温を持續し、積雪量も亦稍多量なりしが三月に入り氣温上昇し概して良好なる天候を續け、四月上旬融雪期に達したり。然るに同中旬より低温となり下旬以降は殊に不順にして降水量多く、五月に入りても尙降雪を見たり。其の後天候一時恢復せるも五月下旬以降七月下旬に至る間は六月下旬に於て一時高温を示したるのみにして他は何れも平年に比し低温を示し、且曇雨天多く特に七月に於て日照時數は平年に比し著しく少なりき。而して八月に入りてより天候一變し、高温順調となり日照時數も亦多かりしが、八月下旬に至り又々天候惡變し低温不順を續け九月上旬に至るまで之が恢復を見る能はざりき。其の後九月中旬に至り高温晴燥の天候持續し、十月下旬に於て多少急激なる氣温の低下を示せる外概して適順に經過せり。而して初霜は十月十一日、初雪は十月二十八日にして平年に比し前者は九日遅く、後者は三日早かりき。

本年の天候は前述の如くなりしを以て早播を要すべき作物の播種は多少遅延を來たし且發芽に多くの日數を要し加ふるに發芽後の生育も亦遅れたり。而して六月下旬に於て天候稍恢復するに伴ひ多少生育の恢復を見たるも七月に入り又々天候惡變し爲に作況不良に陥りたるもの多く遂に生育を挽回するに至らざりき。故に夏收作物にありては裸麥の多少増收を見たる外孰れも減收を示し、秋收作物にありては九月中旬以降の天候概して良好なりし爲、小豆、水稻等は登熟稍良好なりしも他は孰れも前記天候の影響により生育遅延し恢復するに至らずして收穫せるを以て孰れも減收を示せり。斯くの如く本年の天候は近年に見ざる不順に終始せるを以て各種作物の生育は遅延を免れざりしも各試験共に大體信憑すべき成績を收め得たり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 水稻直播並に移植試験及調査
- 三 田作と畑作との輪作試験
- 四 耕鋤深淺對肥料用量試驗(水稻)
- 五 播種量試驗(裸燕麥)
- 六 刈草跡地の地力増進試験及調査
- 七 綠肥作物の試験及調査
  - イ 播種期節調査
  - ロ 新輸入綠肥作物の經濟的特性調査
  - ハ 綠肥肥效試験
  - ニ 綠肥に對する過燐酸石灰適量試驗
  - ホ 綠肥肥效率調査
- 八 亞麻種子交換試験
- 九 移植時期試験(除蟲菊)
- 一〇 移植距離試験(除蟲菊)
- 一一 三要素試驗(除蟲菊、菜種)
- 一二 三要素用量試驗(除蟲菊)
- 一三 株間距離試験(煙草)
- 一四 收穫時期並に乾燥方法調査(豌豆)
- 一五 乾藪裝置を利用せる米の火力乾燥調査

- 二六 米の貯藏法調査
- 二七 直播法調査
- 二八 赤クローバー種子の脱粒法調査
- 二九 亞麻に對する施肥時期調査
- 三〇 除草法調査(亞麻)
- 三一 繁殖法調査(亞麻)
- 三二 適否調査(藥用人參、莞草)
- 三三 白花除蟲菊の系統調査
- 三四 赤クローバー鋤込法並に跡地の整地法調査
- 三五 機械栽培調査(水稻)
- 三六 依頼農具の試験及調査
- 三七 氣象 觀測

右の内、本年完了せる試験及調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。

- 一 田作と畑作との輪作試験
- 二 赤クローバー鋤込法並に跡地の整地法調査
- 三 深耕洋犁調査
- 四 水稻直播器調査
- 五 動力用藥切機調査

## 二 園藝に關する試験及調査

本試験は蔬菜及果樹に對し、本道に於て最も適當なる品種の選定並に耕種肥培法に關し試験及調査を行ふを目的とす。而

して本年は氣候極めて不順なりし爲、各種蔬菜及果樹に病害蟲の蔓延甚しかりしも防除を行ひ試験施行上支障なからしめたり。

本年試験の結果特記すべきは、葡萄環狀剝皮の結果その熟期を早からしむるのみならず、果粒を大ならしめ、品質を向上せしむるを確め、其の他蔬菜貯藏法に於てはその適温を確めたり。又當業者の依頼に應じ葱頭種子の鑑定を五百餘點行ひたる等なり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

### 甲 蔬菜に關する試験及調査

- 一 原産地産蔬菜種子試験(越瓜)
- 二 蔬菜栽培法試験
  - イ 抑制栽培試験(胡瓜)
  - ロ 促成栽培試験(ミツバ)
- 三 貯藏法試験(セルリー、結球白菜、リーク)
- 四 蔬菜採種調査(菜菔、胡瓜、茄)
- 五 蔬菜種子冷蔵調査(二十日大根、葱、サルシフィ、牛蒡、甘藍、パースニップ、萵苣、葱頭)
- 六 蔬菜間作緑肥調査(トマト、コンモンベツチ)
- 七 新蔬菜普及調査(セルリー、リーク)
- 八 マツシユルム調査
- 九 蔬菜園灌溉調査
- 一〇 萎縮病未發生地産馬鈴薯種薯調査
- 一一 生育調査(馬鈴薯)

### 乙 果樹に關する試験及調査

- 一 果樹園經營試驗(苹果、和梨、洋梨、櫻桃、梅、葡萄)
- 二 環狀剝皮試驗(葡萄)
- 三 貯藏法試驗(葡萄)
- 四 「フキロキセラ」免疫性砧木調査(葡萄)
- 五 果實貯藏庫調査
- 六 果樹優良系統調査(栗)
- 七 永久的果樹棚及垣根調査
- 八 果樹根部の發育狀況調査(葡萄、苹果)
- 九 果樹生育調査
- 一〇 本道に於ける果樹栽培狀況調査(苹果、和梨、洋梨、櫻桃、須具利、葡萄)
- 一一 果實の傷害防除調査(葡萄)

### 三 土性及施肥標準に關する試験及調査

土地改良竝に地力涵養の地方的基本資料を得んが爲、左記の土性調査及施肥標準査定に關する試験及調査を施行せり。

#### 甲 土性調査

本年調査を行へる地方は渡島國茅部郡、龜田郡の一部、檜山郡並に膽振國虻田郡にして外業班二班を以て之に當らしめたり。茅部郡及龜田郡は火山灰地帯、檜山郡は普通土壤地帯、虻田郡は火山灰及酸性土壤地帯にして孰れも特に土地改良竝に地力恢復の必要ある地方なりしを以て踏査の傍ら地方農事指導機關に對し土地管理上の注意を與へしめたり。

而して其の調査面積及設定せる土壤區は茅部郡及龜田郡にありては九方里一五區、虻田郡にありては四八方里一一區にして、上記調査區域に於て施肥標準調査豫定區域及試驗施行箇所として選定せるものは茅部郡にありては二區域二箇所、檜山郡にありては七區域七箇所及虻田郡にありては一五區域一五箇所なり。

#### 乙 施肥標準に關する試験及調査

施肥標準調査中ポット並に現地三要素試験にありては石狩、膽振、渡島、北見、釧路、根室國、室蘭市外三七箇所村六八箇所の土壤につき又現地肥料配合試験にありては五箇所村五箇所に於て之を行ひたり。

##### 一 ポット三要素試験

本年施行せる各地の土壤採集箇所及供試作物を示せば左の如し

土 壤 採 集 箇 所	供 試 作 物	土 壤 採 集 箇 所	供 試 作 物
石狩國 札幌郡琴似村(本場土)	水稻、裸麥、燕麥	石狩國 石狩郡新篠津村	燕 麥
同 石狩郡石狩町字花畔	水 稻	同 膽振國 千歲郡千歲村字ネシコシ	水 稻
同 同 當別村字東小川通	同 燕 麥	同 同 惠庭村字下山口	同 同
同 同 札幌郡廣島村字音江別	同 同	同 同 同 字柏木	同 同
同 同 手稻村	同 同	同 勇拂郡苫小牧町字植苗	同 同
同 同 豐平町字藤ノ澤	同 同	同 同 安平村字東遠淺	同 同
同 同 江別町	同 同	同 同 厚真村字トニカ	同 同
同 同 白石村字厚別	同 同	同 同 字濱厚真	同 同
同 同 石狩郡石狩町字高岡	同 同	同 千歲郡千歲村字ホロカ	同 同
同 同 當別村字材木澤	同 同	同 惠庭村字島松	同 同



試驗施行箇所	供試作物	試驗施行箇所	供試作物
膽振國 有珠郡伊達町字西紋並 同 同 德舜野村字中徳	小 麥 燕 麥	同 同 同 同 虻田郡洞爺村字北仁成香 同 同 豊浦村字新山梨	燕 麥 同 麥

### 三 現地肥料配合試験

試驗施行箇所	供試作物
北見國 網走郡津別村字下津別 同 同 網走町字藻琴原野 同 同 常呂郡置戸村字上置戸 同 同 紋別郡興部村 同 同 枝幸郡中頓別村	水 稻 裸 麥 同 同 同 同

右の内、左の一箇所につきては、本年を以て試験を結了し、指導奨励の資に供せんとす。

北見國 紋別郡興部村

### 四 土壤肥料に關する試験及調査

本試験は農耕地生産力の維持増進を圖らんが爲、土壤の管理、肥料の種類、肥效或は之が施用法に關する試験及調査を行ふを目的とし、本年施行せる試験及調査は從來繼續中のものの内一部に改廢をなしたる他は前年に繼續せり。而して其の成績の顯著なるものは、新田三要素試験に於ては原土、石灰加用共に燐酸の肥效顯著なるを認め、地力對肥料種類試験にあり

ては堆肥、綠肥、大豆粕、鰾粕の有機質肥料施用の場合には孰れも地力を維持し殊に堆肥に於ては寧ろ地力を増進するを認め又硫酸アンモニア、智利硝石等の如き無機質肥料のみ施用の場合には著しく地力の減耗するを示し、水田有機物減耗試験にありては堆肥配合區の成績最も顯著なるを認めたり。

右の外、土壤所含三要素有效量試験にありては、水稻外一八作物に就て行ひたるに、菽莖類を除けば各作物共無窒素區の收量最も少なく、無燐酸區之に亞ぎ、石灰窒素施用期試験にありては其の施用時期は春季よりも秋季施用の優るを示し、堆肥腐熟程度試験にありては完熟堆肥の肥效大なるを示せり。

尙、本年は氣候不順なりしを以て之が對策に關する各種試験及調査を施行せり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 三要素試験(水稻、煙草、除蟲菊)
- 二 土壤所含三要素有效量試験(水稻、裸麥、大麥、小麥、燕麥、ライ麥、玉蜀黍、蕎麥、黍、菜)
- 三 堆肥綠肥所含三要素肥效試験(種、亞麻、甜菜、馬鈴薯、大豆、小豆、茶豆、豌豆、蕃茄、葱頭)
- 四 地力減耗試験(大麥、小麥、燕麥、茶種、亞麻、黍)
- 五 有機質減耗試験(水稻、燕麥)
- 六 地力維持試験(裸麥)
- 七 新肥料肥效比較試験(燕麥)
- 八 硫酸アンモニア配合試験(水稻)
- 九 燐酸質肥料配合試験(水稻、大豆)
- 一〇 窒素適量査定試験(水稻)
- 一一 石灰窒素施用期試験(燕麥)
- 一二 地力對肥料種類試験(大豆)
- 一三 各種肥料肥效比較試験(燕麥)
- 一四 堆肥腐熟程度肥效試験(水稻、馬鈴薯)

- 一五 堆肥肥效持續試驗(水稻、裸麥)
- 一六 肥料用量試驗(煙草)
- 一七 酸性土壤矯正用石灰種類試驗
- 一八 灌溉水による三要素天然供給量調査
- 一九 本道主要作物三要素吸收量調査(大豆)
- 二〇 積雪及融雪水が土壤に及ぼす影響調査
- 二一 ラフセン調査
- 二二 陽素調査(水稻、燕麥、大豆、甜菜)
- 二三 堆肥醱酵素調査
- 二四 石炭灰肥效調査(水稻、燕麥)

## 五 火山灰地に關する試験及調査

本道に於ける火山灰地の分布は甚だ廣汎にして、然も其の土壤は他の普通鑛質土壤に比し特異の性状を有するを以て其の管理又自ら異なる所あり。本試験は斯種土壤に對する改良利用竝に耕種の方法を明にし、以て火山灰地農業經營に關する基礎資料を得んとする目的の下に早來火山灰地試験地(膽振國勇拂郡安平村字早來)に於て各種試験及調査を施行せり。本年の成績中主なるものは、火山灰地に適する水稻及青刈用玉蜀黍の品種を決定し又アスバラガス、甘藷、陸稻の適否を明にしたりること、火山灰地に對する麥類及甜菜の適當なる栽培法、水稻、燕麥、馬鈴薯に對する堆肥と硫酸アンモニアとの配合の關係に就き見るべき成績を挙げ得たることなりとす。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 品種試験(秋播小麥、燕麥、青刈用玉蜀黍、水稻、大豆、小豆、馬鈴薯、甜菜)

- 三 適否試験(陸稻、アスバラガス、甘藷、サンドベッチ、菜種、ルーサン、煙草、落花生)
- 四 火山灰地に於ける綠肥作物種類試験(赤クローバー、白メリロット、コンモンベッチ、サンドベッチ、綠肥大豆)
- 五 播幅試験(秋播小麥)
- 六 中耕培土試験(秋播小麥)
- 七 風害防除試験(裸麥、甜菜)
- 八 飼料作物種類試験(青刈飼料(菊芋、青刈用玉蜀黍、向日葵、燕麥、コンモンベッチ、豌豆)、根菜類(馬鈴薯、菊芋、家畜用ビート、家畜用胡蘿蔔、瑞典蕪菁))
- 九 綠肥作物播種期節試驗(コンモンベッチ、サンドベッチ)
- 一〇 移植對直播比較試験(水稻)
- 一一 施肥量經濟試驗(甜菜)
- 一二 磷酸及加里質肥料肥效比較試験(水稻)
- 一三 加里適量査定試験(甜菜)
- 一四 堆肥と硫酸アンモニア配合試験(水稻、馬鈴薯)
- 一五 硫酸アンモニア配合試験(水稻、馬鈴薯)
- 一六 窒素質肥料配合試験(甜菜)
- 一七 地力測定試験(水稻、燕麥、大豆、馬鈴薯)
- 一八 三要素適量査定試験(甜菜)
- 一九 火山灰地對各地土壤生産力比較試験(水稻、燕麥、大豆、馬鈴薯)
- 二〇 火山灰地對各層土壤生産力比較試験(燕麥、大豆、馬鈴薯)
- 二一 新肥料肥效比較試験(水稻、燕麥)
- 二二 火山灰地農業經營試験

右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。

- 一 移植對直播比較試験

- 二 中耕培土試験
- 三 播幅試験
- 四 綠肥作物肥效試験
- 五 飼料作物種類試験(根菜類)
- 六 適否試験(ルーサン)

## 六 泥炭地に關する試験及調査

本試験は、本道に汎布せる泥炭地中農耕地として其の性状に最も缺陷多き高位泥炭地に對する改良利用並に耕種の方法等を明にし、以て泥炭地農業經營に關する基礎資料を得るを目的とし、美唄泥炭地試験地(石狩國空知郡美唄町大字沼貝村)に於て各種試験及調査を施行せり。

而して其の成績中主要なるものを擧ぐれば、高位泥炭地の地力維持増進上、客土を行ふに當り有機物施入又は石灰加用を併せ行ふことにより一層效果大なるを確めたと、斯種土壤に硫酸アンモニアを施用する際の併用肥料の種類及之が適當なる配合法を明にしたると、其の他裸燕麦、大豆、小豆、菜豆、豌豆、水稻等の適品種を決定したること等なりとす。

- 一 豊凶考照試験
- 二 品種試験(裸燕麦、大豆、小豆、菜豆、豌豆)
- 三 適否試験(水稻、莞草、牧草、綠肥作物、根菜類)
- 四 三要素試験(燕麦、馬鈴薯、玉蜀黍、小豆、蔬菜類)
- 五 三要素適量査定試験(玉蜀黍)
- 六 堆肥施用法試験(燕麦、馬鈴薯)

- 七 窒素質肥料用量試験(大豆)
- 八 堆肥と硫酸アンモニアとの關係試験(燕麦、馬鈴薯)
- 九 硫酸アンモニア配合試験(燕麦、馬鈴薯)
- 一〇 肥料配合連用試験(燕麦、小豆、馬鈴薯)
- 一一 新肥料肥效査定試験(燕麦、馬鈴薯)
- 一二 各種肥料肥效比較試験(水稻、小豆)
- 一三 各種土地改良法組合せ試験(燕麦、小豆、馬鈴薯)
- 一四 排水渠の距離と深さとの關係試験(水稻)
- 一五 客土の效果試験(水稻)
- 一六 堆肥石灰效果比較試験(水稻)
- 一七 三要素並に其の用量試験(水稻)
- 一八 泥炭堆肥調査(燕麦)
- 一九 高位泥炭地開墾上牛放牧の效果調査(蕎麥、菜種)
- 二〇 高位泥炭地造田の適期調査(水稻)
- 二一 稻胡麻葉枯病及稻熱病と硅酸施入との關係調査
- 二二 稻胡麻葉枯病と肥料との關係調査
- 二三 泥炭地水田沈泥法調査
- 二四 泥炭地圃場に於て流亡する養分調査
- 二五 高位泥炭地野草利用調査
- 二六 高位泥炭地暗渠排水法調査
- 二七 泥炭地地方重要病害蟲調査
- 二八 模範作調査

- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 堆肥と硫酸アンモニアの關係試験
  - 二 硫酸アンモニア配合試験
  - 三 各種土地改良法組合せ試験

## 七 農産製造に關する試験及調査

本試験は、本道主要農産物の加工利用に關する試験及調査を行ふを目的とし、本年に於ける試験及調査は從來繼續中のものの内一部改廢せるも大體に於て前年に繼續施行せり。

而して其の成績の顯著なるものは、原料採集時期對塲詰及罐詰試験に於て玉蜀黍及ライマビーンは完熟の初期、即ち、子實の内容稍充實せる時期に於て採集せるもの最も優良にして、之より成熟の程度進むに隨ひ品質低下するを確めたること、又果實貯藏法試験に於て普通室内よりも冷蔵室内貯藏優良にして而も真空貯藏のもの著しく優り瓦斯貯藏之に亞ぐを認めたること、竝に馬鈴薯冷加工法試験中冷凍場の位置及乾燥法に關し究明せること等なりとす。

- 本年施行せる試験及調査の種類左の如し
- 一 味噌製造試験(ライ麦)
  - 二 醬油製造試験(ライ麦)
  - 三 原料採集時期對塲詰及罐詰製造試験(玉蜀黍、ライマビーン)
  - 四 冷凍加工法試験(馬鈴薯)
  - 五 本道主要作物の化學的成分調査(水稻)
  - 六 特用作物竝に蔬菜類の加工利用調査(除蟲菊、アスパラガス)
  - 七 澱粉竝に馬鈴薯の加工利用調査

- 八 漬物製造法調査
  - 九 果實類塲詰及罐詰法調査(葡萄)
  - 一〇 葉煙草乾燥法調査
  - 二 ライ麦及燕麥の利用調査
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 原料採集時期對塲詰及罐詰製造試験(一部)
  - 二 冷凍加工法試験(一部)

## 八 糖業に關する試験及調査

本試験は、本道に於ける甜菜優良品種の選擇竝に甜菜の耕種肥培及製糖副産物利用、甜菜病害蟲の防除法等に關し、諸般の試験及調査をなすを目的とするものにして、本年に於ては新に數種の試験及調査を加へて施行せり。而して其の成績中主なるものは、智利硝石と硫酸アンモニア、智利硝石と石灰窒素との配合割合が甜菜の收量、品質に及ぼす影響、耕鋤の深さと施肥用量との關係、ニトロホスカ、硝酸石灰の肥效、肥料三要素用量と甜菜褐斑病との關係、甜菜夜盜蟲に對する砒酸鉛使用法、甜菜肥培の基本的試験として甜菜生育各期の肥料三要素吸收狀態及土壤水素イオン濃度と收量との關係等を明にせることなりとす。

- 本年施行せる試験及調査の種類左の如し
- 一 秋耕時期試験
  - 二 整地法試験
  - 三 耕鋤の深さと施肥用量との關係試験
  - 四 智利硝石配合試験



- 五 硫酸アンモニア及石灰窒素施用期試験
- 六 石灰用量試験
- 七 綠肥跡地對磷酸用量試験
- 八 肥料三要素と甜菜褐斑病との關係試験
- 九 特殊肥料と甜菜褐斑病との關係試験
- 一〇 連作試験
- 一一 綠肥肥效試験
- 一二 各種窒素質肥料所含窒素吸收率査定試験
- 一三 十勝高丘地土壤對硫酸アンモニア肥效試験
- 一四 作物對土壤水素イオン適濃度試験
- 一五 甜菜夜盜蟲に對する砒酸鉛使用法試験
- 一六 夜盜蟲の産卵と甜菜間引との關係試験
- 一七 シロオビノメイガ驅除試験
- 一八 採種用甜菜の甜菜蛇眼病防除試験
- 一九 甜菜生育各期肥料三要素吸收量調査
- 二〇 各種窒素質肥料と甜菜生育各期の窒素吸收狀態調査
- 二一 硫酸アンモニア施用期調査
- 二二 ニトロホスカ肥效調査
- 二三 硝酸石灰肥效調査
- 二四 綠肥肥效調査
- 二五 多收穫調査
- 二六 採種用秋播甜菜の畦幅株間調査

- 二七 秋播採種によりて得たる種子を供用せる甜菜の品質並に收量調査
  - 二八 甜菜種子の大小別が收量及品質に及ぼす影響調査
  - 二九 採種用母根の大小別對畦幅株間調査
  - 三〇 甜菜主根の分岐調査
  - 三一 甜菜纖維の硬化調査
  - 三二 甜菜褐斑病に對する耐病性因子調査
  - 三三 各種耕土の硝化力調査
  - 三四 生育調査
  - 三五 甜菜作と氣象との關係調査
  - 三六 甜菜種子の發芽年限調査
  - 三七 温度と水分が甜菜の發芽狀態に及ぼす影響調査
  - 三八 ベタ屬に關する調査
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 智利硝石配合試験
  - 二 硫酸アンモニア及石灰窒素施用期試験
  - 三 甜菜夜盜蟲に對する砒酸鉛使用法試験

## 九 栽桑及育蠶に關する試験及調査

本試験は、本道に於て養蠶經營上必要なる桑樹の適當せる栽培法及蠶の品種並に其の經濟的飼育法等に關する試験及調査を行ふものにして、其の成績中主なるものは桑樹刈取時期試験に於て桑樹伐採收穫の早きもの程其の後の枝條の伸長は大なる

るも葉收量は晚きもの程大なるを明にし、桑樹の仕立法中根刈及中刈の拳式竝に無拳式につき其の得失を究め、又春蠶掃立時期早きものは晚きものに比し概して作柄竝に繭質の良好なるを明にせること等なりとす。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 桑樹適否試験
- 二 桑樹刈取時期試験
- 三 桑樹耕耘試験
- 四 桑樹仕立法試験
- 五 桑園模範經營
- 六 肥料に關する試験
- 七 蠶飼育法試験
- 八 夏秋蠶掃立時期試験
- 九 春蠶掃立時期と品種との關係試験
- 一〇 模範養蠶經營
- 一一 蠶蛆の調査
- 一二 本道野桑調査
- 一三 本道産實生苗生産調査
- 一四 接木調査
- 一五 桑園間作綠肥調査
- 一六 桑樹寒枯豫防調査
- 一七 桑樹麩新法調査
- 一八 桑苗摘葉調査
- 一九 本道産繭の品質調査

右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。

- 一 桑樹仕立法試験
- 二 肥料に關する試験
- 三 春蠶掃立時期と品種との關係試験

## 一〇 病理に關する試験及調査

本試験は、本道主要農作物に對する主なる病害につき試験及調査をなすを目的とし、本年は從來の施行事項以外に新に一項を加へたるが、春季以來の不順なる氣候が植生に及ぼしたる影響極めて大にして隨つて成績の判然せざる結果を生ずるの止むなきに至れるものありと雖も、稲苗腐敗病豫防法、稲苗腐敗病と肥料との關係、稻熱病發生と稻藁處分との關係、稻熱病に關する試験、本道農作物重要病害に關する調査、本道に於ける食用野生植物に關する調査等につき闡明するを得たり。本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 稲苗腐敗病豫防試験
- 二 稲苗腐敗病と肥料との關係試験
- 三 稻熱病發生と稻藁處分との關係試験
- 四 稻熱病發生と土性との關係試験
- 五 稻胡麻葉枯病發生と土性との關係試験
- 六 菜豆細菌病と種子との關係試験
- 七 小豆立枯病と種子との關係試験
- 八 採種用甜菜に於ける甜菜蛇眼病豫防試験
- 九 煙草モザイク病と肥料との關係試験

- 一〇 セルリー腐敗病豫防試験
  - 一一 稻熱病の調査
  - 一二 稻苗腐敗病の調査
  - 一三 黒蝕米の調査
  - 一四 水稻黄化萎縮病の調査
  - 一五 小麦冬損の調査
  - 一六 裸麥茶紋病の調査
  - 一七 麥類萎縮病の調査
  - 一八 馬鈴薯萎縮病の調査
  - 一九 小豆立枯病の調査
  - 二〇 菜豆細菌病の調査
  - 二一 菜豆嵌工病の調査
  - 二二 甜菜病害調査
  - 二三 本道重要雜草調査
  - 二四 本道農作物重要病害調査
  - 二五 農作物連作地病害調査
- 右の内、本年完了せる試験及調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 稻苗腐敗病豫防試験
  - 二 本道農作物重要病害調査(一部)

## 一一 昆蟲に關する試験及調査

本試験は、本道主要農作物に對する主なる害蟲並に其の益蟲につきて試験及調査をなすを目的とし、從來施行せる事項以外に新に多數の試験及調査項目を加へたるが、其の成績の主なるものとしては、菜豆種蠅による被害と菜豆播種期との關係を闡明して該蟲豫防上適當なる菜豆播種期を確定し、又甜菜夜盜蟲防除に對する砒酸鉛の使用法に就き究明し、更に菜種品種と葉潜蠅との關係に就き調査を行ひたること等なりとす。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 稻泥負蟲に對する藥劑效果比較試験
- 二 針金蟲防除試験
- 三 針金蟲誘引試験
- 四 豌豆豆象に對する加熱防除試験
- 五 種蠅と播種期との關係試験
- 六 種蠅と播種法との關係試験
- 七 甜菜夜盜蟲に對する砒酸鉛使用法試験
- 八 夜盜蟲の被害と甜菜切葉との關係試験
- 九 夜盜蛾の産卵と甜菜間引との關係試験
- 一〇 重要害益蟲飼育調査
- 一一 二化性螟蟲發蛾期の調査
- 一二 稻泥負蟲の調査
- 一三 稻泥負蟲卵寄生蜂の調査
- 一四 甜菜夜盜蟲類の調査
- 一五 甜菜夜盜蟲卵寄生蜂の調査
- 一六 大豆莢蠹蟲の調査
- 一七 針金蟲の調査

- 一八 豌豆豆象の調査
- 一九 大根蛆の調査
- 二〇 種蠅の調査
- 二一 茶種品種と葉潜蠅との關係調査
- 二二 栗實害蟲の調査
- 二三 殺蟲並に驅蟲劑の調査
- 二四 本年本道に於て發生せる特に注意すべき害蟲の調査
- 二五 右の内、本年完了せる試験及調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 種蠅と播種期との關係試験
- 二 甜菜夜盜蟲に對する砒酸鉛使用法試験
- 三 本年本道に於て發生せる特に注意すべき害蟲の調査

### 一二 農業經營試驗及模範經營

#### 一 農業經營試驗

本試験の目的は、從來の各種試験及調査の成績を綜合して各主要農業地帯に對し合理的農業經營法を立案し、實地農家を以て之が經營を行はしめ、其の收支經濟並に日常生活の實情を明にすると共に、漸次改善を加へ地方的模範農場たらしめ、以て農業經營改善の資に供せんとするにありて、本年は從前に引續き一〇箇所の經營試験を施行せるに、本年の氣候は極めて不順なりし爲、各作物共に收量少なく、加ふるに經濟界の不況に伴ひ農産物價格低廉にして孰れも豫期の收入を擧げ得ざりしと雖も、之を附近農家のものに比すれば合理的經營を行へる結果、其の成績良好にして、地方農家を啓發せしところ頗る大なりき。

尙、本年は更に膽振國虻田郡喜茂別村に、面積一八町歩、乳牛の飼養を加味せる畑作經營試験を開始せんが爲、住宅、納屋、畜舎等の建築、入地者の選定を行ひたり。

既設農業經營試驗左の如し

名	稱	所在地	擔當者	監督場名	經營種類	經營面積	事業開始年次
北海道農事試験場	十勝支場高丘地經營試驗農場	十勝國河西郡大正村字幸震	森志 希留	十勝支場高丘地試驗地	混同經營	一五・〇〇歩	昭和三年
同	根室支場經營試驗農場	根室國標津郡標津村字中標津	今井 三右衛門	根室支場	同	一〇・〇〇	同
同	北見支場上斜里經營試驗農場	北見國斜里郡斜里村字上斜里原野	關口 峯二	北見支場	同	一五・〇〇	同
同	瀬棚高丘地經營試驗農場	後志國瀬棚郡利別村字神丘	渡部 重貞	瀬棚農事試驗場	同	一〇・〇〇	同
同	火山灰地經營試驗農場A	膽振國勇拂郡安平村字早來	寺島 弘	早來火山灰地試驗地	穀菽經營	一〇・〇〇	大正十三年
同	泥炭地經營試驗農場	石狩國札幌郡琴似村字發寒	坪山 與三太郎	本場	混同經營	七・〇〇	同
同	火山灰地經營試驗農場B	膽振國勇拂郡安平村字早來	瀨谷 安太郎	早來火山灰地試驗地	穀菽經營	五・〇〇	昭和三年
同	同	同	西川 政二	同	主畜經營	五・〇〇	同
同	北見支場野付牛經營試驗農場	北見國常呂郡野付牛町	江頭 作藏	北見支場	田兼畑作經營	水田 四・七五 畑 一・二四	同
同	上川支場經營試驗農場	石狩國上川郡永山村	齋藤 留五郎	上川支場	田作經營	三・五〇	同

### 二 模範經營

本經營の目的は農事試作場内に於て從來當該試作場並に本支場の試験及調査成績を綜合し、且所在地方の實情に鑑み其の地方に最も適應せる農業經營法を立案し、實地農家若は試作場直營にて經營を行ひ、其の收支經濟並に日常生活を明にし、以て地方農業經營の指針たらしめんとするにあり。而して本年に於ては、釧路、天鹽、日高農事試作場に於て從來に引續き經營を行はしめたる外、更に瀬棚、美瑛農事試作場に増設せり。然れども本年の氣候極めて不順なりしたため、各作物共に作況不良なりしに加へ、經濟界の不況に伴ふ農産物價格の下落の爲其の収入は豫期に比し少なしと雖も、之を附近農家のものに比すれば孰れも良好の成績にして其の經營上並に耕種技術上地方農家に範を示し得たるところ頗る大なりき。

既設農業模範經營左の如し

名 稱	所 在 地	擔 當 者	監督場名	經營種類	經營面積	事業開始年次
釧路農事試作場 模範經營	釧路國厚岸郡太田村	試作場直營	釧路農事試作場	主畜經營	一〇・〇〇 <sup>少</sup>	大正十一年
天鹽農事試作場	天鹽國天鹽郡天鹽町	狩山義一	天鹽農事試作場	混同經營	五・〇〇	昭和二年
日高農事試作場	日高國靜内郡靜内町	山田武次郎	日高農事試作場	畑作兼畑作經營	四・〇〇	同 三年
瀬棚農事試作場	後志國瀬棚郡利別村	木村義夫	瀬棚農事試作場	畑作兼畑作經營	水田 二・二〇 畑田 二・三〇	同 六年
美瑛農事試作場	石狩國上川郡美瑛村	高橋龜一郎	美瑛農事試作場	畑作經營	六・九七	同

### 一三 委託試驗

本、支場の試験にして直に應用し難き特殊なる地方に對し委託試驗を施行せり。  
本年施行せる試験の種類及委託箇所左の如し

試験の種類	委託箇所	試験の種類	委託箇所
水稻品種試験	岩見澤町、發足村、伊達町、 幌加内村、鶴川村	泥炭地水稻品種査定試験	天鹽町
酸性土壤地に於ける緑肥作物種類試験	東俱知安村、遠別村	泥炭地水稻品種試験	幌延村
水田裏作サンドベツチ適否試験	手稻村、砂川町、角田村	泥炭地厩肥石灰效果試験	稚内町、利別村
傾斜地に於ける耕種法試験	俱知安町、豊平町、美瑛村	泥炭地適量査定試験	利別村
除蟲菊移植時期試験	和寒村、多度志村、俱知安町	水田酸性矯正試験	美深町
除蟲菊對三要素試験	同	酸性土壤對石灰施用法試験	天鹽町
除蟲菊對綠肥施用試験	同	甜菜對肥料配合試験	清水村、鹿追村、土幌村、川西村、芽室村、幕別村、池田町
泥炭地排水試験	天鹽町	甜菜對肥料試驗	鬼鹿村
泥炭地客土試験	天鹽町、稚内町、幌延村	甜菜對綠肥試驗	苦前村
泥炭地三要素試験	天鹽町、幌延村	甜菜對石灰用量試驗	同
泥炭地三要素適量査定試験	天鹽町	甜菜對石灰用量試驗	清水村、幕別村、富良野町、 上湧別村
泥炭地各種肥料肥效比較試験	天鹽町、利別村、稚内町	甜菜品種試驗	俱知安町、南尻別村
泥炭地畑作物適否試験	天鹽町	夏秋兼用桑樹栽植試験	

桑樹栽植試験	苦小牧町	黒飯米に關する試験 深耕の程度及施肥量と稻熱 病發生との關係試験	角田村、芹別村
桑樹適否試験	狩太村、小平薬村		篠路村
農業經營試験	南尻別村、小平薬村		

## 第二品種改良

### 一 品種改良に關する試験

各種作物につき本道の風土に恰適し、收量多く品質良好なる品種を選出せんが爲、各種品種試験及人工交配、純系淘汰法に關する試験及調査を行ひたり。本年其の成績の顯著なりしは純系淘汰法に於ては本年更に草燕麥、豌豆の優良系統を選出し得たること、人工交配法に於ては品質良好なる裸燕麥並に耐病性甜菜品種の系統を育成し得たること等なりとす。本年施行せる事業の概要左の如し

試験の種類	種田	種如	作物	作物
品種改良に關する試験	種類	種類	数	数
	四	一七九	五七	一二三三

### イ 普通作物

#### 一 品種試験

- 一 品種選抜試験  
水稻、陸稻、大麥、裸麥、燕麥、裸燕麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯
- 二 品種豫備試験  
水稻、陸稻、馬鈴薯

#### 二 新品種育成試験

- 一 純系淘汰  
四年目調査を行ひたるもの 水稻一九系統  
五年目調査を行ひたるもの 菜豆二二系統、豌豆二七系統
- 二 人工交配

作物名	栽培調査		行ひたる		主なる		個體及系統		新に交配せる組合せ數
	組合せ數	個體數	組合せ數	個體數	組合せ數	系統數	組合せ數	系統數	
陸稻	四七	七一三	九二一、六〇〇	三	四三五	一二	四五〇	一一	
燕麥			五一七、九三八	七	九八	八	二三七		
菜豆						四	七六		

尙、系統生産力檢定試験に於ては、陸稻にありては前年に繼續し雜種第四代以後五八系統に就き試み、又、燕麥にありては前年に引續き三〇系統に就き行へる外、本年より上川支場依頼の水稻雜種第五代梗種一一系統、糯種五系統に就き同様試験を行ひたり。

#### 三 實生栽培

萎縮病耐病性馬鈴薯品種を得んが爲、實生栽培を行ひたり。

### □ 特用作物

(イ) 亞麻

#### 一 新品種育成試験

#### 一 純系淘汰

第三代系統比較試験(ワシントン一四號八二系統、サギノ一八系統)

#### 二 人工交配

作物名	栽培調査を行ひたる主なる個體及系統數			
	第一代	第二代	第三代	第四代以降
亞麻	組合せ數 一個體數 三	組合せ數 一個體數 六	組合せ數 一個體數 三	組合せ數 一個體數 一
	二九九	八一六九	一八七	三五

### (ロ) 菜種

前年に繼續し、春播菜種二七品種、秋播菜種二四品種に就き特性調査を施行せり。

### (ハ) 甜菜

#### 一 品種試験

#### 一 品種選抜試験

#### 二 品種豫備試験

#### 二 新品種育成試験

前年來本場に於て育成せる六二系統につき比較調査を行ひ、優良なる一九系統を選抜し、明年度育種用母根に充當せんとするの外、特に褐斑病に耐病性強き優良品種の育成を圖らんが爲、從來育成選抜し來れる六一系統に就き詳細なる比較調査を行ひ九系統を選抜せり。

更に同上の目的にて五品種間の組合せによる人工交配を行ひたり。又雜種第一代五六系統、第二代二六系統、第三代五七系統につき比較調査を行ひたり。

### ハ 蔬菜

前年に繼續し、蒞蒞草に就き在來種にして無刺種子の系統を固定せんが爲、各組合せの系統栽培を行ひ、其の分離の状態を調査せる外、蕃茄に就きても人工交配を行ひたり。

### ニ 桑

本道春蠶用に適する優良品種を育成せんが爲、前年道産種と府縣産種との交配により得たる「三〇〇一號」外一七品種を播種して苗木となしたる外、前年養成せる苗木「二九〇一號」外九品種は之を本圃に栽植せり。尙、本年交配を行ひ明年播種せんとするもの「三〇〇一號」外一五品種を得たり。

### 二 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種類名	配付数量	種類名	配付数量
水稻	〇・八六八	玉蜀黍	〇・〇〇一
大陸麥	〇・〇三七	綠肥	〇・〇七二
秋播麥	〇・〇五六	亞麻	〇・〇〇九
春播麥	一・四〇四	馬鈴薯	〇・〇〇一
燕麥	〇・三〇七	蔬菜	〇・〇〇九
裸麥	〇・一六三	蔬菜	〇・〇〇九
春播麥	一・一八三	果樹	八〇〇株
秋播麥	〇・〇六二	甜菜	一二、九九七本
大豆	一・三六六	桑苗	四〇〇〇〇
小豆	〇・一七四	蠶種	一六八、七六五本
大豆	〇・〇四八		二三〇枚
小豆	〇・〇〇七		
豌豆	〇・〇〇一		

### 第三普及事業

#### 一 印刷物の刊行及配付

##### (一) 印刷物の刊行

種類及號數	題名	發行部數
報告 第二六號	一、蠶卵の貯藏保護に關する試驗成績	八〇〇
報 第五二號	第一報 冬季に於ける貯藏溫度に就きて	八〇〇
報 第五五號	二、豌豆種子斑點病に關する調査	三、〇〇〇
報 第五七號	稻馬鹿苗病に關する研究	三、〇〇〇
報 第五九號	北海道に於ける水田雜草	三、〇〇〇
報 第六九號	北海道に於ける食用野生植物	三、〇〇〇
報 第七二號	馬鈴薯黒瘰病及萎縮病に就ての注意	九、〇〇〇
報 第七七號	除草ハロー	九、〇〇〇
報 第八九號	大豆「大谷地二號」及小豆「早生大粒一號」の特性と其の栽培上の注意	九、〇〇〇
報 第九九號	赤銹病抵抗性春時小麥優良品種「春時小麥農林三號」	九、〇〇〇
報 第一〇〇號	本年の農作物耕種法に就ての注意	一〇、〇〇〇
報 第一〇一號	古種子の貯藏に就ての注意	一〇、〇〇〇
報 第一〇二號	赤クローバーの採種に就ての注意	一〇、〇〇〇
報 第一〇三號	洋鋸、新製地用碎土機、新製地用中耕除草機、背負型自動噴霧器	一〇、〇〇〇
報 第一〇四號	食用野生植物に就ての注意	一〇、〇〇〇
報 第一〇五號	大豆優良品種「霜不知一號」の特性と其の栽培上の注意	七、〇〇〇
報 第一〇六號	水稻「小川糯一號」の特性と其の栽培上の注意	九、〇〇〇
報 第一〇七號	冷凍馬鈴薯粉「雪の華」の製法	一二、〇〇〇
報 第一〇八號	稻熱病に就ての注意	一〇、〇〇〇
報 第一〇九號	燕麥の脱稈機、精穀機、壓扁機及燕麥萬石	一〇、〇〇〇
報 第一一〇號	昭和二年業務概要	七〇〇
特別 第一〇一號	第一陳列館陳列品解説(增訂四版)	二、〇〇〇
特別 第一〇二號	第二及第三陳列館陳列品解説(增訂三版)	二、〇〇〇
特別 第一〇三號	北海道米作文獻目錄	五〇〇



特 別 出 版

病害蟲防除提要	六、〇〇〇
分析成績彙集 第一輯(肥料)	二、〇〇〇
施肥標準成績概要	一、〇〇〇
育蠶標準表	一、〇〇〇
試験及調査の成績に鑑み指導獎勵上注意すべき事項(第二輯)	一、〇〇〇
北海道農事試験場案内	一、〇〇〇
北海道農事試験場繪葉書	一、〇〇〇
北海道農事試験場農業練習生修了者名簿	一、〇〇〇
北海道農事試験場一覽(増訂再版)	二、〇〇〇
北海道農事試験場上川支場一覽	五、〇〇〇
十勝支場一覽	五、〇〇〇
北見支場一覽	五、〇〇〇
十勝支場高丘地試験地一覽	五、〇〇〇
美唄泥炭地試験地一覽	五、〇〇〇

三四

(二) 印刷物の配付

種 類	配 付 部 数	種 類	配 付 部 数
農 報	七八一	農 報	一三〇、三二六
報 告	五、〇三二	其 他	三七、二七〇

二 農事教習生の養成

本年養成中の農事教習生左の如し

農 事 實 習 生	二〇名(一年生一〇名、二年生一〇名)
農 業 練 習 生	四七名
蠶 業 講 習 生	九名
農 事 研 究 生	二四名

三 試験成績普及獎勵用映畫の作製

前年に繼續し、主として養蠶に関する指導映畫を作製せり。

四 講習講話、その他

一 講習講話、實地指導及調査

講習講話、實地指導及調査の爲、場員を派遣せるは技師七七回三八一日、技手一四四回八五三日、囑託一六回三九日、助手一五回三四五日なり。

右の外、事務打合せの爲、屬を出張せしめたるは一四回五八日なり。

二 實業科擔任教員夏季講習會

北海道廳學務部の委託により實業科擔任教員夏季講習を左記により開催せり。

三五



期 間 自七月十日 至七月三十日 二日間  
 人 員 三八名  
 講習科目 作物、果樹、蔬菜、病害、害虫、土壤、肥料、農産加工、養蠶、農業經營

三 農事指導員及町村農會技術員研究會

本年中開催せる農事指導員並に町村農會技術員研究會其他講習會を開催せるは九回二〇日間なり。  
 右の外、北海道廳農産課主催により全國優良農具實演會を當場參觀デー期間、即ち八月十二日より八月十四日迄三日間本場に於て開催せり。

五 參觀 人

參觀人總數 八、四八〇名

六 參觀 デー

輓近當業者の農業技術に對する理解は其の度を高め到底從來の抽象的指導を以て足れりとせず著しく具體的指導を渴望しあるに鑑み、本年も前年に繼續し八月十二日、十三日、十四日の三日間參觀デーを開催し廣く參觀者を勧誘せるに當業者の來場せるもの頗る多く好成績を收めたり。

七 質 疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

第四 其の他の事業

一 依 賴 分 析

件 數 一、七二〇件 成分數 六、一〇五成分

二 見 本 園

本試験に屬せざる各種作物品種、牧草、藥草等の見本園を設け本試験施行上の豫備的調査を行ふと共に參觀人に供覽せり。



- 二 適否試験（煙草、莞草）
- 三 耕鋤深淺試験（水稻）
- 四 挿秧期試験（水稻）
- 五 田作と畑作との輪作試験（水稻、陸稻、春播小麥、燕麥、亞麻、大豆、小豆、綠肥作物播種期節節試驗（コンモンベツチ、サントベツチ）
- 六 水田綠肥試驗（サントベツチ）
- 七 生育調査（水稻）
- 八 菽荳類の火力乾燥調査（小豆、菜豆）
- 九 種籾の貯藏と發芽調査
- 一〇 田畑雜草調査
- 一一 水田灌漑法調査
- 一二 栽培年數による米質變化調査
- 一三 水稻種子登熟と結實との關係調査
- 一四 水田氣温調査
- 一五 氣候不順時對策調査
- 一六 園藝作物調査（アスパラガス、蕃茄、茄、蕪菁、葱、體菜、胡蘿蔔、結球白菜、甘藍、菜菔）
- 一七 氣象觀測

### 二 土壤肥料に關する試験及調査

本試験は土壤の生産力維持並に増進を圖る爲、肥料の種類、肥效及施用法に關する試験及調査をなすを目的とす。本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 石灰用量試験（甜菜）
  - 二 窒素質新肥料肥效比較試験（水稻、燕麥）
  - 三 硫酸アンモニア施用法試験（水稻）
  - 四 肥料施用期試験（水稻）
  - 五 堆肥肥效調査（水稻）
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、農事指導資料として發表せんとす。
- 一 窒素質新肥料肥效比較試験（燕麥）

### 三 病害蟲に關する試験及調査

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 黒蝕米の試験
  - イ 發生時期試験
  - ロ 水稻倒伏と黒蝕米發生との關係試験
  - ハ 刈取後の處理法と黒蝕米との關係試験
- 二 二化性螟蟲の調査
- 三 地方重要農作物病害蟲調査

### 四 農業經營試驗

當地方水田經營の改善を圖らんが爲、當支場に於ける從來の各種試験成績を應用し、上川地方に適應せる合理的水田經營

法を立案し、實地農家を入地せしめて試験を施行せるに、本年は春季以來氣候不順なりしに拘はらず大體に於て既定の計畫を施行し其の收支を明にすることを得たり。

### 五 委託試驗

支場の成績を應用し難き特殊なる地方に對し試験を委託施行せるものにして、本年は幌延村五箇所に設置せしも、水稻にありては氣候不順なりし爲成績不良に了れり。

## 第二 品種改良

### 一 品種改良に關する試験

水稻の優良品種を育成せんが爲、人工交配により幾多の有望系統を選抜せる外、秋播小麦、燕麥、馬鈴薯、甜菜等地方に適する良種を選択し、春播小麦、玉蜀黍、大豆、菜豆、陸稻等の品種の特性を調査せり。

### 二 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種	類	配付數量	種	類	配付數量
水	稻	一・三三五	秋	播小麦	〇・〇〇五

春播小麦	〇・〇五〇	碗豆	〇・〇一〇
燕麥	〇・〇一〇	玉蜀黍	〇・〇六五
陸稻	〇・〇一五	馬鈴薯	二〇貫
春播小麦	〇・〇二五	蕎麥	〇石〇二五
大豆	〇・〇九一	コンモンベツチ	〇・〇五五
菜豆	〇・〇五一	ライマピーン	〇・〇二〇
菜豆	〇・〇二〇	蔬菜種	一一貫

## 第三 普及事業

### 一 農業練習生の養成

本年養成中の農業練習生は四名なり。

### 二 講習講話、その他

講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を派遣せるは技師三〇回九一日、技手二八回五六日、雇及助手一〇回一四日なり

### 三 參觀人

參觀人總數 六、六〇五名

#### 四 質 疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

## 十 勝 支 場

### 第一 試 驗 及 調 査

本年施行せる試験及調査の概要左の如し

試験及調査の種類	種 田		作		種 畑		作	
	種 類	數	種 類	數	種 類	數	種 類	數
種藝に關する試験及調査		三		二八		一〇		一八六
土壤肥料に關する試験及調査		三		二六		八		四五三
病害蟲に關する試験及調査		一		〇		三		一
水田漏洩水に關する試験及調査						五		八四一
高丘地に關する試験及調査						〇		三五八
糖業に關する試験及調査						一		
農業經營試驗						二		一八五
委託試驗						九		二〇二三
計		七		七四		九		二〇二三

#### 一 種 藝 に 關 する 試 驗 及 調 査

本試験は普通作物、特用作物の各種につき耕種肥培、管理、收穫並に地方に對する作物の適否等普通農事に關する試験及

調査を行ふを目的とす。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 播種期節試験(水稻、菜豆)
- 三 除草法試験(水稻)
- 四 適否試験(陸稻、莞草、アスバラガス、菊芋)
- 五 緑肥作物種類試験(コンモンベッチ、サンドベッチ、赤クローバー)
- 六 緑肥肥効試験(菜豆、甜菜)
- 七 緑肥作物播種期節試験(コンモンベッチ、サンドベッチ)
- 八 緑肥作物播種期節肥効比較試験(コンモンベッチ、サンドベッチ)
- 九 緑肥残効試験(コンモンベッチ、サンドベッチ)
- 一〇 緑肥作物播種量試験(コンモンベッチ、サンドベッチ)
- 一一 緑肥作物播種量肥効比較試験(コンモンベッチ、サンドベッチ)
- 一二 大豆及小豆と氣象との關係調査
- 一三 重要農作物乾燥法調査(豌豆)
- 一四 重要農作物多收穫調査(大豆、小豆、菜豆、馬鈴薯、甜菜)
- 一五 緑肥作物採種調査(赤クローバー)
- 一六 菽類作物作付順序調査(大豆、小豆、菜豆、豌豆)
- 一七 播種期節調査(蕎麥)
- 一八 菽類の子實の生育調査(大豆、小豆)
- 一九 緑肥作物播種期節と生育調査(コンモンベッチ、サンドベッチ)
- 二〇 刈取期調査(赤クローバー)

- 三 緑肥が作物に及ぼす増収率調査(燕麥、玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、亞麻)
  - 三 蔬菜貯藏法調査(甘藍、蒞穢草、白菜、葱、長芋、牛蒡)
  - 三 氣候不順時に於ける畑作物播種期節調査  
(大麥、春播小麥、裸麥、燕麥、春播ライ麥、蕎麥、稗、粟、黍、  
玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、甜菜、菜種、亞麻、  
體菜、蕪菁、二十大根、蒞穢草、白菜、葉葱、菜服)
  - 三 氣象觀測
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 播種期節試験(水稻)
  - 二 適否試験(アスバラガス)

## 二 土壤肥料に關する試験及調査

本試験は當地方土壤生産力の維持増進を圖らんが爲、土壤の管理、各種肥料の肥効及其の施用法等に關する試験及調査を行ふを目的とす。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 三要素試験(燕麥、小豆、菜豆、豌豆)
- 二 窒素質肥料肥効比較試験(水稻、菜豆)
- 三 加里用量試験(菜豆、燕麥、小豆、豌豆)
- 四 窒素質肥料用量試験(裸麥)
- 五 硫酸アンモニア施用法試験(水稻、馬鈴薯)
- 六 堆肥の腐熟程度と其の肥効木框試験
- 七 作物種類對石灰用量試験
- 八 石灰種類比較調査(豌豆)

- 九 新肥料肥效比較調査(燕麥)
  - 一〇 石灰苦土用量と豈科作物の生育に及ぼす影響調査(大豆、豌豆)
  - 二 赤クローバー莖葉及根部の菽荳類に及ぼす残效調査(豌豆)
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、農事指導資料として發表せんとす。
- 一 窒素質肥料肥效比較試験(水稻)

### 三 病害蟲に關する試験及調査

本試験は當地方主要農作物に對する病害蟲の適當なる防除法を案出するを目的とす。本年施行せる調査の種類左の如し

- 一 稻泥負蟲卵寄生蜂の調査
- 二 二化性螟蟲の調査
- 三 地方重要農作物病害蟲調査

### 四 水田漏洩水に關する試験及調査

本試験は十勝國に於ける水田用水の漏洩甚しく、爲に水稻栽培の困難なる地方に對し試験を行ひ、其の原因につき試験及調査を行ふと同時に之に對する適當なる對策を案出せんとするを目的とし、昭和三年以來清水村ニトマップに試験地を設置し各種の試験及調査を施行せるに、本年は天候不順の爲生育劣りたるも試験の目的を阻碍せらるることなく信憑するに足る成績を挙げ得たり。

本試験は尙繼續の要あるも本年迄の經過を農事指導資料として發表せんとす。

### 五 高丘地に關する試験及調査

本試験は當地方に廣布せる段階地又は丘陵地にして特殊の地形を有し表土は火山灰より生成せる高丘地に對し、高丘地試験地(十勝國河西郡大正村大字幸震村)に於て耕種肥培に關する試験及調査を行へり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 品種試験(玉蜀黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、根菜類)
- 三 綠肥作物種類適否試験 (コンモンベツチ、赤クローバー、ダレヤアロベキユルス、スプリングベツチ、ビシアサチバフランシス、サンドベツチ、ビシアアトロアルブレア、ビシアモナタ、ビシアパンノニカ、ラチルスチンヂターヌス)
- 四 綠肥作物種類肥效試験 (赤クローバー、コンモンベツチ、サンドベツチ、セラデラ、ブリユールイビン、ダレヤ)
- 五 播種期節試験(大豆、小豆、菜豆)
- 六 適否試験(除蟲菊、菊芋)
- 七 三要素試験(小豆、菜豆、馬鈴薯)
- 八 堆肥の腐熟程度と其の肥效試験(甜菜)
- 九 加里用量試験(燕麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆)
- 一〇 堆肥用量試験(小豆)
- 一一 作物種類對石灰用量調査 (裸麥、小麥、ライ麥、燕麥、黍、粟、陸稻、大豆)
- 一二 綠肥栽培調査(燕麥、赤クローバー)
- 一三 氣候不順時に於ける畑作物播種期節調査 (裸麥、裸燕麥、蕎麥、ライ麥、粟、大豆)
- 一四 綠肥作物播種期節調査(コンモンベツチ、サンドベツチ)
- 一五 豆類連作調査(大豆、小豆、菜豆、豌豆)
- 一六 石灰施用法調査(菜豆)
- 一七 氣象觀測



右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。

- 一 綠肥作物種類適否試験
- 二 三要素試験(馬鈴薯)

### 六 糖業に關する試験及調査

本試験は當地方主要作物の一たる甜菜栽培に關する諸般の試験及調査を施行するを目的とす。本年施行せる試験及調査の種類左の如し

#### イ 支 場

- 一 品種試験
- 二 後作物試験
- 三 春秋耕比較試験
- 四 窒素質肥料肥效比較試験
- 五 磷酸質肥料肥效比較試験
- 六 磷酸質肥料配合試験
- 七 綠肥跡地の三要素試験
- 八 甜菜莖葉肥效比較試験
- 九 新肥料用量試験
- 一〇 施肥用量對經濟試驗
- 一一 石灰窒素施用法試験
- 一二 綠肥肥效試験

- 一 品種試験
- 二 耕鋤時期試験
- 三 甜菜莖葉肥效比較試験
- 四 施肥用量對經濟試驗
- 五 磷酸質肥料配合試験
- 六 綠肥跡地の三要素試験
- 七 多收穫調査
- 八 石灰用量と甜菜との關係調査
- 九 肥料と甜菜褐斑病との關係調査
- 一〇 多收穫調査
- 一一 甜菜褐斑病と氣象との關係調査
- 一二 夜盜蛾豫察調査

#### □ 高丘地試験地

- 一 品種試験
  - 二 耕鋤時期試験
  - 三 甜菜莖葉肥效比較試験
  - 四 施肥用量對經濟試驗
  - 五 磷酸質肥料配合試験
  - 六 綠肥跡地の三要素試験
  - 七 多收穫調査
  - 八 石灰用量と甜菜との關係調査
  - 九 秋播採種用甜菜の播種期節調查
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 後作物試験
  - 二 施肥用量對經濟試驗

### 七 農業經營試驗

本試験は従来の試験及調査に基き十勝國高丘地に適當なる農業經營法を立案し、農家を入地經營せしめ、漸次改善を加へ模範たるべき經營の域に達せしむる目的を以て昭和三年開始せり。本年は春季以來氣候不順の爲各種作物の生育劣り殊に秋收作物は孰れも減收を示せり。然れども之を附近農家に比すれば尙著しく優り當業者をして指導啓發せる處尠からざりき。

### 八 委託試驗

當支場に於て施行し難き特殊なる試験は之を地方に委託施行せんとするものにして、本年は十勝國內四箇所に於て、燕麥、大豆、小豆、菜豆、豌豆に就き加里石灰試験、加里用量試験を行ひ、夫々効果を收め得たり。

## 第二 品種改良

### 一 品種改良に關する試験

#### 一品種試驗

本試験の目的は各種作物品種を蒐集し其の特性、收量、品質等を比較し以て當地方に適する優良品種を確定せんとするにありて、水稻、大麥、秋播小麥、春播小麥、燕麥、黍、大豆、小豆、菜豆、豌豆、馬鈴薯、菜菔、桑等につき試験を行ひ、尙小豆各品種の特性調査を行へり。  
右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、農事指導資料として發表せんとす。

#### 一 菜豆品種試験(紅金時)

#### 二 新品種育成試験

本試験は當地方の主要農作物たる大豆に就き、新優良品種育成を目的とし、本年は雜種第四代、第二代及第一代の調査、人工交配及純系淘汰を行ひ、從來裸大豆は小粒種に限られたるも育成の結果大粒種を育成し得たり。

### 二 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種	類	配付數量	種	類	配付數量
水	稻	〇・二二七石	麥	類	〇・三四六石
菽	類	〇・八七六石	桑	苗	三六、五〇〇
馬鈴薯	薯	一〇石	其他	木	〇・〇三四石

## 第三 普及事業

### 一 農業練習生の養成

本年養成中の農業練習生は四名なり。

### 二 講習講話、その他

講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を派遣せるは技師三九回一〇八日、技手五七回一二八日、助手二二回四四日なり。右の外、事務打合せの爲、屬を出張せしめたるは二一回四四日なり。

### 三 參觀人

參觀人總數 四、七七五名

### 四 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

## 北見支場

### 第一 試験及調査

本年施行せる試験及調査の概要左の如し

試験及調査の種類	種畑		作物	
	種類	數	種類	數
種藝並に園藝に關する試験及調査	一	五	六	二二
土壤肥料に關する試験及調査	一	一	四	二九
病害蟲に關する試験及調査	一	一	一	二
糖業に關する試験及調査	一	一	一	一三
農業經營試験	一	一	一	一
委託試験	一	一	一	一
計	八	一	四〇	七〇
				一、〇一九

### 一 種藝並に園藝に關する試験及調査

本試験は普通作物、園藝作物、特用作物等に就き耕種肥培、管理、收穫等普通農事に關する試験及調査をなすを目的とす。而して本年に於ける確定成績の主なるものは、當地方に適當なる水田除草法を確認し、籾黍の收穫時期を定め、又薄荷に關し適當なる栽培法及除草法或は品種と刈取期との關係を闡明し得たることなりとす。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
- 二 水田除草法試験
- 三 收穫期試験(籾黍)
- 四 間作試験(薄荷)
- 五 移植距離試験(薄荷)
- 六 除草法試験(薄荷)
- 七 作條設置試験(薄荷)
- 八 品種と刈取期試験(薄荷)
- 九 乾燥法試験(薄荷)
- 一〇 果樹對綠肥栽培試験(苹果)
- 一一 環狀剝皮試験(葡萄)
- 一二 直播移植比較試験(甘藍)
- 一三 直播期節試験(甘藍)
- 一四 生育調査(薄荷)
- 一五 取卸器具の調査(薄荷)
- 一六 採取調査(薄荷)
- 一七 耐病性品種調査(薄荷)
- 一八 薄荷油腺と收穫期との關係調査
- 一九 品種分布調査
- 二〇 動植物季節調査
- 二一 氣象觀測

右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。

- 一 水田除草法試験
- 二 收穫期試験(籾黍)
- 三 間作試験(薄荷)
- 四 除草法試験(薄荷)

## 二 土壤肥料に關する試験及調査

本試験は當地方土壤生産力の維持増進を圖らんが爲、土壤の管理、肥料の種類、肥效及其の施用法等に關する試験及調査を行ふを目的とするものにして、本年施行の試験中成績顯著なるものは、綠肥作物に關する事項、水稻及裸麥の加里質肥料肥效比較に關する事項、硫酸アムモニアの配合法に關する事項等に就き闡明し得たることなりとす。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 地力減耗試験(裸麥、大豆、馬鈴薯)
- 二 石灰用量試験(水稻)
- 三 加里質肥料肥效比較試験(水稻、裸麥)
- 四 新田窒素質肥料肥效比較試験(水稻)
- 五 新田磷素質肥料肥效比較試験(水稻)
- 六 新肥料肥效比較試験(水稻)
- 七 窒素磷素質肥料肥效比較試験(水稻)
- 八 硫酸アムモニア配合試験(馬鈴薯)
- 九 三要素用量試験(小麥、大豆、馬鈴薯)
- 一〇 綠肥作物採種試験(サンドベツチ、コンモンベツチ、綠肥大豆、赤クローバー)

- 二 綠肥肥效試験（サンドベッチ、コンモンベッチ、綠肥大豆、赤クローバー）
  - 三 綠肥作物播種量試験（赤クローバー）
  - 三 綠肥作物播種期試験（赤クローバー、コンモンベッチ）
  - 四 綠肥作物播種法試験（赤クローバー）
  - 五 堆肥施用法試験（甜菜）
  - 六 三要素試験（燕麥、菜豆、大豆、馬鈴薯）
  - 七 窒素質肥料肥效比較試験（葱頭）
  - 八 窒素燐酸配合試験（葱頭）
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 綠肥作物に關する試験
  - 二 加里質肥料肥效比較試験（水稻、裸麥）
  - 三 硫酸アンモニア配合試験

### 三 病害蟲に關する試験及調査

- 本試験は當地方に於ける主要作物に對する重要病害蟲並に益蟲に就き試験及調査を行へり。  
本年施行せる調査の種類左の如し
- 一 薄荷銹病防除と刈取期との關係調査
  - 二 二化性螟蟲の調査
  - 三 薄荷銹病防除調査
  - 四 薄荷病害蟲調査
  - 五 地方重要農作物病害蟲調査

### 四 糖業に關する試験及調査

- 本試験は當地方主要農作物の一たる甜菜の栽培法に關する試験及調査を施行せり。  
本年施行せる試験及調査の種類左の如し
- 一 後作試験
  - 二 輪作週期試験
  - 三 輪作試験
  - 四 加里用量試験
  - 五 深耕と施肥量との關係試験
  - 六 生育調査
  - 七 甜菜褐斑病と氣象との關係調査
  - 八 採種用秋播甜菜播種期節節調査
  - 九 夜盜蟲豫察調査
  - 一〇 甜菜病害蟲の種類及防除調査
  - 一一 硝酸化力調査
- 右の内、本年完了せる試験及調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 輪作週期試験（一部）
  - 二 甜菜褐斑病と氣象との關係調査

### 五 農業經營試驗

本年當支場に於て直接監督施行せる農業經營試驗は左の二箇所なり。

一 野付牛經營試驗

野付牛地方に於ける造田面積の増加が年と共に著しき發達を示しつつあるに鑑み、當地方田作農業經營の適當なる規模並に組織殊に比較的大面積を耕作する水田經營に對する農具の利用と適當なる乳牛の飼育頭數とに關し考究し、併せて經營上参考となるべき諸般の基礎的研究を試み漸次改善を加へ以て地方農業經營の模範たらしめんとするものにして、本年は試驗開始後第三年目に當れり。

而して本年の氣候極めて不順なりしたため作況著しく不良にして豫期の成績を收め得ざりしも、之を附近農家の作況に比すれば猶良好にして地方農家を啓發せし處尠からざりき。

二 上斜里經營試驗

從來の試驗及調査の成績を綜合し、北見國斜里郡斜里村及清水村高丘地方の標準となるべき混同農業經營を立案し、農家をして之を經營せしめ漸次改善して地方の模範たらしめんとするものにして、本年は經營開始後第二年目に當れり。而して本年の如き氣候不順時に際しても一部のものを除きては作況概して昨年より良好にして、且、附近農家に比し著しく優り地方農家を裨益せし處尠からざりき。

六 委託試驗

當支場の試験成績にして直に之を應用し難き特殊の地方に對し試験を委託施行せり。本年施行せる試験は薄荷窒素素質肥料肥效比較試験、薄荷磷酸質肥料肥效比較試験、薄荷加里用量試験、薄荷堆肥用量試験、薄荷加里質肥效比較試験、土性による含油率の差異並に地方産薄荷油性狀調査、火山灰地に於ける綠肥作物種類試驗、綠肥種類肥效試験、火山灰地に於ける裸麥三要素試驗、同窒素用量試験、同磷酸用量試験、同飼料作物試驗にして上斜里經營試驗農場及野付牛町字仁頃、下湧別村字芭露、網走町字東藻琴に於て施行し夫々見るべき成績を挙げ得たり。

第二品種改良

一 品種改良に關する試験

一品種試驗

本試験の目的は各種作物品種を蒐集し、其の特性、收量、品質等を比較し以て當地方に適する優良品種を決定せんとするにありて、水稻、大麥、裸燕麥、薄荷、甜菜、馬鈴薯、桑、アスパラガス、セルリー、其の他各種園藝作物等につき品種選抜試験を行ひ、尙、品種特性調査等を行へり。

二 新品種育成試験

本年に於ては水稻「チンコ坊主」に就き純系淘汰法による系統比較試験を行ひたる外、裸麥、大豆、小豆、豌豆に就き純系淘汰、裸麥、甜菜に對し人工交配法及生産力檢定試験を施行し夫々見るべき成績を挙げ得たり。

二 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種	類	配	付	數	量	種	類	配	付	數	量
水	稻			四・三四六	石	大	豆			一・一九八	石
秋	播			〇・三五五		裸	燕			〇・〇一七	
春	播			一・〇三〇		秋	播			〇・〇一九	
	小					麥	麥				
	麥										



- 一 豊凶考照試験
- 二 氣候不順時に於ける水稻直播播種期節試験
- 三 氣候不順時の水田に於ける畑作物播種期節試験 (春播ライ麦、燕麦、粟、大豆、玉蜀黍、蕎麦、菜豆、馬鈴薯、葱、野蜀葵、稗)
- 四 氣候不順時に於ける水稻移植期節試験
- 五 氣候不順時に於ける畑作物播種期節試験 (大麦、小麦、春播ライ麦、燕麦、玉蜀黍、蕎麦、稗、粟、大豆、小豆、菜豆、馬鈴薯)
- 六 氣候不順時に於ける畑作物間作試験
- 七 氣候不順時に於ける畑夏作物收穫跡地利用試験
- 八 飼料作物種類試験 (家畜用ビート、胡蘿蔔、ルタバカ、蕪菁、菊芋)
- 九 適否試験 (川芎、纈草、苧麻、桑、莞草、アスパラガス)
- 一〇 畦幅對間作試験 (葱、菜豆)
- 一一 不時栽培試験 (薑、胡瓜、メロン)
- 一二 秋播試験 (甘藍)
- 一三 綠肥肥效試験 (馬鈴薯)
- 一四 綠肥作物播種期節試験 (コンモンベッチ、サンドベッチ)
- 一五 露地栽培試験 (メロン)
- 一六 果樹摘果期節試験 (苹果、梨)
- 一七 結果枝摘心試験 (葡萄)
- 一八 環狀剥皮期節試験 (葡萄)
- 一九 着袋種類試験 (梨)
- 二〇 稻作と氣象との關係調査
- 二一 水田綠肥作物調査
- 二二 多收作調査 (水稻、馬鈴薯)

- 二三 支那梨剪定法調査
- 二四 採種調査 (結球白菜、胡瓜、茄)
- 二五 果實蔬菜加工調査
- 二六 葡萄接木法調査
- 二七 氣象觀測

右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。

- 一 適否試験 (アスパラガス)
- 二 不時栽培試験 (薑)
- 三 氣候不順時に於ける水稻直播播種期節試験
- 四 氣候不順時の水田に於ける畑作物播種期節試験
- 五 氣候不順時に於ける水稻移植期節試験
- 六 氣候不順時に於ける畑作物播種期節試験
- 七 氣候不順時に於ける畑作物間作試験
- 八 氣候不順時に於ける畑夏作物收穫跡地利用試験

## 二 土壤肥料に關する試験及調査

肥料の種類及肥效、施用量、施用法等に關する試験及調査をなすものにして、本年に於ては胡瓜、蕃茄、葱、葱頭、甘藍等に對する三要素の關係を明にし意義ある成績を挙げ得たり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 三要素試験 (甘藍、蕃茄、白菜、葱頭、陸稻、草莓、葱、茄、胡瓜、蕪菁)
- 二 カリフオス肥效試験 (水稻、秋播小麦、葡萄)



- 三 苗代肥料用量試験
  - 四 磷酸質肥料肥效比較試験（水稻）
  - 五 堆肥と硫酸アンモニアとの關係試験（水稻）
  - 六 窒素及加里適量査定試験（馬鈴薯）
  - 七 堆肥施用量試験（葱）
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、農事指導資料として發表せんとす。
- 一 三要素試験（胡瓜、蕃茄、葱、葱頭、甘藍）

### 三 病害蟲に關する試験及調査

當地方主要農作物に對する病害蟲に關する試験及調査を行ふを目的とす。  
本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 稻熱病に關する試験
- 二 二化性螟蟲の調査
- 三 地方重要農作物病害蟲調査
- 四 セルリーの病害調査
- 五 雜草調査

### 四 委託試験

當支場試験成績にして直に之を應用し難き特殊の地方に對し委託施行せり。而して本年施行せる箇所は上磯郡木古内村、

知内村に對し水稻品種試験、龜田郡七飯村に對し草毒害蟲驅除試験、茅部郡鹿部村に於て火山灰地に於ける蔬菜適否試験等  
を行ひ、夫々相當の成績を挙げ得たり。

## 第二 品種改良

### 一 品種改良に關する試験

渡島地方の風土に適し、收量多く且品質優良なる水稻品種及稻熱病に對する耐病性品種選出の爲、純系淘汰、人工交配等  
を行ひたる外、品種選抜の目的を以て水稻、春播小麥、秋播小麥、裸燕麥、陸稻、大豆、馬鈴薯、茄、蕃茄、胡瓜、葱、苹  
果、梨、櫻桃、梅、草苺、葡萄等につき試験を行ひたり。

### 二 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種	類	配付	數量	種	類	配付	數量
水稻	稻類		〇・二四二石	馬鈴薯	薯類		九百九十四
麥	稻類		〇・二八一	葡萄	穂類		七百四十四
陸稻	稻類		〇・〇一五	梨	穂類		七十四
苳	苳類		〇・一〇〇	苗	木類		五〇
玉蜀黍	黍類		〇・二二五	其他	他		〇・〇〇七
				共	の		〇・〇〇七

### 第三 普及事業

#### 一 農業練習生の養成

本年養成中の農業練習生は五名なり。

#### 二 講習講話、その他

講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を派遣せるは技師二九回九三日、技手二七回五二日なり。右の外、事務打合せの爲、屬を出張せしめたるは一一回一四日なり。

#### 三 參觀人

參觀人總數 二、八二九名

#### 四 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

## 根室支場

### 第一 試験及調査

本年施行せる試験及調査の概要左の如し

試験及調査の種類	種田		作物		種畑		作物	
	種類	数	種類	数	種類	数	種類	数
種藝に關する試験及調査		三	一八		二四		二〇一	
土壤肥料に關する試験及調査		一	二四		五		二七三	
病害蟲に關する試験及調査								
農業經營試驗								
委託試驗								
計	四		四二		三一		四八〇	

#### 一 種藝に關する試験及調査

當地方に於ける作物の適否竝に其の耕種、肥培、管理、其の他新墾地及再墾地用農具の選定等専ら新墾地地方に於ける普通農事に關する試験及調査をなすを目的とす。而して本年の氣候極めて不順なりし爲各作物共作況不振なりしも、其の確定成績の主なるものは新墾當初に於て春耕、秋耕の生産力に及ぼす影響を究明せること、小豆の適當なる栽培距離を明にせること、開墾後累年に於ける農家經濟調査を完了せること等にして孰れも意義ある成績を挙げ得たり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 豊凶考照試験
  - 二 春耕秋耕法試験(燕麥)
  - 三 碎土法試験(燕麥、大豆)
  - 四 適否試験(水稻、陸稻、粟、稗、蕎麥、菊芋、綠肥作物、青刈用玉蜀黍、家畜用ビート、瑞典蕪菁、家畜用蕪菁、家畜用胡蘿蔔、牧草)
  - 五 耕鋤法試験(燕麥)
  - 六 新墾地主要食糧作物播種期節節試験(蕎麥、菜豆、馬鈴薯)
  - 七 播種期節節試験(水稻)
  - 八 畦幅株間距離試験(小豆)
  - 九 亞麻種子交換試験
  - 一〇 開墾法並に開墾費調査
  - 一一 開墾後累年に於ける農家經濟調査
  - 一二 耕鋤期節節調査(燕麥)
  - 一三 發芽前後に於ける除草法調査(燕麥)
  - 一四 收穫乾燥法調査(燕麥)
  - 一五 重要農作物多收穫調査(裸麥、菜豆、馬鈴薯)
  - 一六 綠肥用赤クローバー播種法調査(燕麥)
  - 一七 採種用コンモンベツチ播種期節節調査
  - 一八 氣候不順時に於ける畑作物播種期節節調査
  - 一九 氣象觀測
- 右の内、本年完了せる試験及調査は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 畦幅株間距離試験(小豆)

- 二 春耕秋耕法試験(燕麥)
- 三 開墾後累年に於ける農家經濟調査

## 二 土壤肥料に關する試験及調査

主として新墾地の土壤生産力と其の推移を検し併せて其の維持増進を圖らんが爲、土壤の管理、肥料の種類、肥效及其の施用法等に關する試験及調査を爲すものにして、本年にありては燕麥、大豆、黍及馬鈴薯に對しては孰れも燐酸の肥效極めて大にして窒素之に亞ぎ、甜菜に於ては燐酸は勿論、加里、窒素も其の效果顯著なること、又大豆、燕麥を除き黍、馬鈴薯は堆肥の用量の増加に伴ひ其の收量増加すること等を究明せり。

本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 三要素試験(燕麥、黍、大豆、馬鈴薯、甜菜)
  - 二 新墾地に於ける燐酸用量試験(燕麥、玉蜀黍、黍、馬鈴薯)
  - 三 堆肥用量試験(燕麥、黍、大豆、馬鈴薯)
  - 四 既墾地に於ける燐酸用量試験(燕麥、大豆、馬鈴薯)
  - 五 新墾地に於ける耕鋤深淺調査(燕麥、大豆、馬鈴薯)
  - 六 第一腐植層と第三腐植層との理化學的性質並に肥瘠調査(大麥)
  - 七 新墾地燐酸用量試験跡地に於ける燐酸殘效調査(蕎麥、大豆)
- 右の内、本年完了せる試験は次の種類にして、夫々農事指導資料として發表せんとす。
- 一 三要素試験(燕麥、黍、大豆、馬鈴薯、甜菜)
  - 二 堆肥用量試験(燕麥、黍、大豆、馬鈴薯)

## 三 病害蟲に關する試験及調査

當地方主要農作物に對する重要病害蟲の種類及習性を明にし之が防除法に關し試験及調査を行ふを目的とす。  
本年施行せる試験及調査の種類左の如し

- 一 二化性螟蟲の調査
- 二 スジコガネ防除調査

### 四 農業經營試験

本試験は根室原野に於て最も廣面積を有する高丘地に於ける畑作混同經營法を立案し農家をして之を實地に經營せしめ事業の進行に伴ひ漸次改善して地方農業經營の模範たらしめんとするにあり。而して本年は近年稀に見る氣候不順の爲作況不良なりしと、昨年に引續き農産物價格の下落の爲、豫期の收入を挙げ得ざりしと雖も之を附近農家に比すれば良好の成績にして地方農家指導上の參考となりしところ尠からざりき。

### 五 委託試験

當支場試験成績にして直に應用し難き特殊なる地方に對し委託施行せり。即ち本年は前年に繼續し飼料作物（青刈用玉蜀黍）の適否試験を根室郡和田村に設置せるも發芽後野鼠の喰害を受け全滅せるため中止の止むなきに至れり。

## 第二 品種改良

### 一 品種改良に關する試験

本年は水稻早熟種系統比較試験、菜豆系統比較試験、陸稻及春播小麦系統生産力檢定試験を施行せる外、各種作物品種

の收量、品質及特性等を比較し以て良種を選択せんがため廣く品種を蒐集し試験を施行せるに、裸麥、子實用玉蜀黍、黍、小豆、菜豆、豌豆及馬鈴薯等の適品種を選定し得たり。

### 二 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種	類	配	付	數	量	種	類	配	付	數	量
麥	類			一・三四〇	石	菜	種			〇・〇四〇	石

## 第三 普及事業

### 一 農業練習生の養成

本年養成中の農業練習生は三名なり。

### 二 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其の他の爲、場員を派遣せるは技師六回二三日、技手一回五八日なり。

### 三 參觀人

參觀人總數

五七〇名

#### 四 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

### 檜山農事試作場

當場には北海道農事試驗場本、支場に於て得たる試驗成績を基礎として、地方主要農作物に對する模範作並に一般農事に關する講習講話、實地指導及種苗配付等地方農事の指導に主力を注ぎ餘力を以て地方的特殊試驗及調査を行ひたり。其の概要左の如し

#### 第一 模範作

當場模範作は輪作式第四年目に當れり。而して其の成績は本年は氣候極めて不順なりしたため馬鈴薯、燕麥以外の作物は之が影響を被り收量少なりしと、昨年來の農産物價格下落等のため豫期の成績を挙げ得ざりしもの多かりき。然れども之を附近農家の經營状態に比すれば、其の成績良好にして一般當業者經營上の参考に資せる處尠からざりき。

#### 第二 試驗及調査

國費試驗機關に於て得たる試驗成績にして之が地方的應用上更に證明的試驗の必要あるものに對し之を行へり。本年施行せる試驗及調査の概要左の如し

試驗及調査の種類	種田		作		種知		作	
	種類	數	種類	數	種類	數	種類	數
地方對栽培法に關する試驗及調査	三		二四		一五		四八	



地方對土地管理法に關する試験及調査			
地方對病害蟲に關する試験及調査			
計	五	一	一
	四	五	一
	二	〇	一
			四
			七
			六
			九
			三
			四
			二

### 第三指 導

#### 一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、品評會審査、協議會、研究會等のため場員の出張並に外勤せるは三九回九七日なり。

#### 二 質 疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

#### 三 參 觀 人

參觀人總數 一、五四二名

#### 四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種 類	配 付 數 量	種 類	配 付 數 量
水 稻	〇・〇二九	麥 類	一・〇二五
玉 蜀 黍	〇・〇九二	苽 類	〇・一三六
馬 鈴 薯	〇・二〇〇	コ ン 貝 類	〇・二一七
蔬 菜 種 苗	八四九	水 稻 苗	四〇〇

## 俱知安農事試作場

當場に於ては北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を地方に應用して當業者に範を示すべき事業、即ち主要農作物に對する模範作並に一般農事に關する講習講話、實地指導、種苗配付、酸性土壤の酸度定量等地方農事指導に主力を注ぎ、尙、餘力を以て地方的特殊試験及調査を行ひたり。其の概要左の如し

### 第一 模範作

當場模範作は規模擴張後輪作式第四年目に屬し、其の成績は近年稀に見る氣候不順の影響を被り一、二作物の生育極めて不良のものありしも全體を通ずれば作況稍良好にして、之を附近農家に比すれば甚しく有利なる結果を挙げ得たり。

### 第二 試験及調査

國費試験機關に於て得たる試験成績にして、之が地方的應用上更に證明試験の必要あるものに對し之を行へり。而して當地方は本道中強烈なる酸性土壤の汎布せる地帯なるを以て本年施行せる試験は殊に斯種土壤の改良並に作物栽培法に重きを置きたり。

本年施行せる試験及調査の概要左の如し

試験及調査の種類	種田		作		種畑		作	
	種類	数	区	数	種類	数	区	数
地方栽培法に関する試験及調査	一	二	一	四	七	二	九	七
地方對土地管理法に関する試験及調査	二	三	七	三	七	二	二	一
計				八七				一九一

八〇

### 第三指 導

#### 一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、採種圃及特殊土壤委託試験の指導並に監督、管内酸性土壤調査等の爲場員の出張せるは二〇回七五日にして、此の外、試作場所在地の實地指導の爲場員の外勤せるは二七回四二日なり。

#### 二 質疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

#### 三 參 觀 人

參觀人總數 一、〇九五名

#### 四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種 類	配 付 數 量	種 類	配 付 數 量
麥 類	一・二八五	苽 類	〇・六一五
玉 蜀 黍	〇・一九五	苽 鈴 薯	〇・七〇五
稗 類	〇・〇〇五	馬 鈴 薯	〇・〇五五
菜 種	〇・〇〇五	蕎 麥	〇・〇五五
蔬 菜	五、五〇〇	コ ン 貝 子	〇・五〇〇
花 卉 種	五、五〇〇	南 瓜 種	〇・〇二〇

### 五 酸 度 の 定 量

本年中地方農家の依頼に應じ酸性土壤の酸度定量分析せるもの一五三件なり。



## 釧路農事試作場

當場に於ては北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を當地の如き特殊なる風土地方に實地に應用して、當業者に範を示すべき事業、即ち主畜農業模範經營に主力を注ぐと共に、農事に關する講習講話、實地指導を行ひ、以て地方農事の改善に努め傍ら地方的試験を施行せり。其の概要左の如し

### 第一 模範經營

本模範經營は本年第二期四年目にして、飼養せる家畜は成乳牛六頭、二歳牛一頭、耕馬二頭、鶏一雄一〇雌なり。而して飼料作物作付反別は八町歩にして、從來地力の維持増進に努めたる結果、本年の氣候極めて不順なりしにも拘らず、乾燥牧草、燕麥、瑞典蕪菁、青刈牧草、青刈玉蜀黍、エンシレージ、大豆等は相當の生産を挙げ、大體に於て飼料を自給するを得たり。又一方畜産に於ても蕃殖及乳量共に良成績を挙げ、以て地方農家の指導に資したるところ尠からざりき。

### 第二 試験及調査

國費試験機關に於て得たる試験成績の地方的應用上更に證明的試験に要する特殊事項につき試験を行へり。而して當地方は夏季濃霧の襲來多きを以て特に此の點に留意し、主畜農業に關係密接なる事項を選択施行せり。本年施行せる試験及調査の概要左の如し

試驗及調査の種類	種畑		區	
	種類	數	區	數
地方對栽培法に關する試驗及調査	一	四		五三
地方對土地管理法に關する試驗及調査	一	六		七七
地方對病害蟲に關する試驗及調査	二	一		三三
計				一三三

### 第三指 導

#### 一 講習講話、其他

講習講話、實地指導及採種圃監督、品評會審査等のため場員の出張せるは一四回五八日なり。

#### 二 質疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

#### 三 參 觀 人

參觀人總數 七〇五名

#### 四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種 類	配 付 數 量	種 類	配 付 數 量
馬 鈴 薯	三九〇 <sup>口</sup>	燕 麥	一・〇〇〇 <sup>石</sup>

#### 五 見 本 作

試作と共に來觀者の參考に供せんが爲、前年に繼續し見本として蔬菜、花卉等を栽培し、地方農家の觀覽に供したり。

## 美深農事試作場

當場に於ては北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を當地方に實地に應用して、當業者に範を示すべき事業、即ち地方重要農作物に對する模範作及農事指導に關し主力を注ぐと共に、餘力を以て地方重要農作物に關する特殊試験を行ひたり。其の概要左の如し

### 第一 模範作

一般畑作稻作並に養蠶の副業を加味したる模範作を行ひたり。而して本年は春季以來稀有の氣候不順と農産物價の下落により地方農家の收支状態甚だ不良に陥りたるも、當場模範作の成績は相當の所得を挙げ、以て當業者の参考に資したるところ尠からざるを認めたり。  
尙、模範養蠶に於ても極めて良好なる成績を挙げ得たり。

### 第二 試験及調査

國費試験機關に於て得たる試験成績にして、地方的應用に關し更に證明的試験の必要を認めたるものに對し之を行へり。  
本年施行せる試験及調査の概要左の如し

試験及調査の種類	種田		作		種畑		作	
	種類	数	種類	数	種類	数	種類	数
地方對栽培法に關する試験及調査		三	三〇	一	三一	一〇		
地方對土地管理法に關する試験及調査		二	一七	一	一五	三		
地方對病害蟲に關する試験及調査		五	四七	一	三七	一		
計								

### 第三指 導

#### 一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其他の爲、場員の出張せるは一九回五七日なり。

#### 二 質疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

#### 三 參 觀 人

參觀人總數 一、一四一名

#### 四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種 類	配 付 數 量	種 類	配 付 數 量
水 稻 類	〇・七一五 <sup>石</sup>	麥 類	〇・二七 <sup>石</sup>
菽 類	〇・二五〇	馬 鈴 薯 類	三・二七 <sup>石</sup>
コ ン 貝 類	〇・二九〇		三・四 <sup>石</sup>
モンベツチ			五

## 天鹽農事試作場

當場に於ては北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎として、當地方に應用して當業者に範を示すべき事業、即ち農業模範經營並に地方農事の指導に關する講習講話、實地指導及種苗配付等に對し力を注ぎ餘力を以て地方的特殊試験を行ひたり。其の概要左の如し

### 第一 模範經營

本經營は天鹽地方に於ける販賣作物の外自家食糧及家畜飼料作物を栽培し、一方堆肥の多量生産を圖ると共に綠肥を栽培する、即ち自給自足を方針とする畑五町歩に大家畜三頭（牛二頭、馬一頭）及其の他小家畜を飼育する經營組織を以て實地農家をして經營を行はしめ以て當業者に其の範を示さんとするにあり。而して其の成績は近年稀有の不順なる氣候に際會せしも合理的栽培により夏收作物は豫期以上の成績を挙げ、秋收作物にありても其の成熟見込なきものは孰れも蕎麥、菜菔、蕪菁等に播き換へ或は間作し、以て自家食糧及飼料の生産に努めたる結果極めて良好の成績を見、一方堆肥の増施と綠肥の栽培とは地力を著しく増進せしめたるを認めたり。尙、前年以來の不況の折柄稀有の凶作に際會し一般農家の困窮の度著しきものあるも、本經營に於ては植産収入と共に相當の畜産収入ありて、一般農家に比し其の成績良好にして斯種經營は本地方に極めて有利なるを知らしめたり。

### 第二 試験及調査

國費試験機關に於て得たる試験成績にして地方的應用に關し更に證明的試験の必要を認めたるものに對し之を行へり。  
 本年施行せる試験及調査の概要左の如し

試験及調査の種類	種田		作		種畑		作	
	種類	數	區	數	種類	數	區	數
地方對栽培法に關する試験及調査	一	一		二五	二六	九三		
地方對土地管理法に關する試験及調査	一	一		二四	一四	二一八		
地方對病害蟲に關する試験及調査	三	一		五四	四〇	三一		
計								

### 第三指 導

#### 一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、品評會審査、農事調査、採種圃及國費委託試験監督等の爲、場員の出張せるは一四回八六日なり。

#### 二 質疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

#### 三 參 觀 人

參觀人總數

一、四五九名

### 四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種 類	配 付 數 量	種 類	配 付 數 量
水 稻	〇・〇二〇	麥 類	〇・七五〇
ラ イ	一・三〇〇	大 豆	〇・二〇〇
小 豆	〇・一五〇	馬 鈴 薯	一五〇

## 瀬棚農事試作場

當場に於ては北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を當地方に實地應用し當業者に範を示すべき事業、即ち當地方主要農作物に對する模範經營及模範作並に其の他農事に關する講習講話、實地指導、種苗配付等地方農事指導に主力を注ぎ餘力を以て地方的特殊試験を施行せり。又、本年の開始に係る國費農業經營試験瀬棚高丘地經營試験農場事業の監督指導を行ひたり。其の概要左の如し

### 第一模範經營

本經營は本年開設せるものにして、畑地に於て一部自家食糧及家畜飼料作物を栽培し、可及的自給方針を以て泥炭地水田より得る植産収入を主體とし、家畜生産の畜産収入を加へたる低位泥炭地水田農業を經營せんとするにありて、水田二町九反歩、畑六反八畝歩、宅地、蔬菜畑、牧草地、其の他一町四反二畝歩にして、家族は六人内從業者成人換算三・五人と看做して經營法を立案せり。

本年に於ては區劃及開墾、造田並に土地改良に力を注ぎ、他當地方に最も恰適する水稻各品種を適宜按配し、初年目より自給方針を以て臨みたるに、本年の氣候極めて不順に終始せる爲、豫期の成績に達し得ざりしと雖も、尙之を附近農家に比すれば概して良好なる成績を示し、地方農家を啓發せるところ尠からざるを認めたり。

### 第二模範作

本年は春季以來近年稀有の不順なる氣候に遭遇せると、前年に引続き農産物價格下落の爲、一般農家の收支は甚だ困難に陥りたるもの多かりしも當場模範作の成績は頗る良好なる結果を示せり。

### 第三 試験及調査

國費試験機關に於て得たる試験成績にして地方的應用上更に證明的試験の必要を認めたるものに對し之を行ひたり。本年施行せる試験及調査の主要左の如し

試験及調査の種類	田		作		畑	
	種類	數	種類	數	種類	數
地方對栽培法に關する試験及調査	三	二	二	二	九	一〇
地方對土地管理法に關する試験及調査	五	二	四	二	一	一〇
計			七	三	一〇	二〇

### 第四 指導

- 一 講習講話、其他  
講習講話、實地指導、其の他の爲、場員の出張又は外勤せるは一九四五〇日なり。
- 二 質疑應答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

### 三 參觀人

參觀人總數 一、〇九二名

### 四 種苗配付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種類	配付數量	種類	配付數量
水稻	〇・二七〇石	麥類	〇・五五五石
大豆、小豆	〇・一八八石	玉米	〇・〇六二石
馬鈴薯	二七四匁	綠肥作物	〇・〇一六石



## 日高農事試作場

當場に於ては北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を當地方に實地應用して當業者に範を示すべき事業、即ち模範經營を行ひ一方農事に關する指導、講習講話、實地指導、種苗配付等に主力を注ぐと共に餘力を以て當地方主要農作物に對する試験を行ひたるが、其の成績顯著にして地方農事の改善上裨益せるところ尠からざるを認めたり。其の概要左の如し

### 第一 模範經營

本經營は本地方に於ける産業上主要なる位置を占むる馬の飼養を加味せる水田一町歩、畑四町歩の合理的經營法を立案し、農家をして實地に經營を行はしめ漸次改善を加へ、地方に對する模範農場たらしめんとするものなり。而して本年は開始後二年目に當れるが、本年は近年稀なる不順の氣候なりしと前年に引續く農産物價格の下落の爲豫期の收入を挙げ得ざりしと雖も、之を附近農家のものに比すれば良好なる成績を示し地方農家を裨益せしところ尠からざりき。

### 第二 試験及調査

國費試験機關に於て得たる試験成績にして地方的應用上更に證明的試験の必要を認めたるものに對し之を行へり。本年施行せる試験及調査の概要左の如し

試驗及調査の種類	種田		作區		種畑		作區	
	種類	數	種類	數	種類	數	種類	數
地方對栽培法に關する試驗及調査		二		一		二		七
地方對土地管理法に關する試驗及調査		五		七		四		二
計		七		八		一六		一〇二

### 第三指 導

#### 一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、採種圃監督、品評會審査等のため場員の出張せるは三回一九日なり。

#### 二 質 疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

#### 三 參 觀 人

參觀人總數 四六五名

#### 四 見 本 作

事業上及來觀者の參考に供せんがため見本として各種作物を栽培し地方農家の觀覽に供せり。

#### 五 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種 類	配 付 數 量	種 類	配 付 數 量
水 稻 類	一・三六一石	麥 類	〇・〇六一石
苽 類	〇・一八六石	蜀 黍 類	〇・〇四〇石
馬 鈴 薯	四一		

## 稚内農事試作場

當場に於ては北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を實地に適用し當業者に範を示すべき事業、即ち當地方主要農作物に對する模範作及其他一般農事に關する講習講話、實地指導、種苗配付等を行ひ以て地方農事の改善に努むると共に餘力を以て地方的特殊試験を行ひたり。其の概要左の如し

### 第一 模範作

本年は氣温低冷に終始し近年稀に見る不順の氣候なりしと、前年に引續く農産物價格の下落とにより豫期の成績を挙げ得ざりき。然れども之を附近農家のものに比すれば成績良好にして、當業者の参考に資せるところ尠からざりき。

### 第二 試験及調査

國費試験機關に於て得たる試験成績にして地方的應用上證明的試験の必要を認めたるものに對し之を行ひたり。本年施行せる試験及調査の概要左の如し

試験及調査の種類	田		畑	
	種類	數	種類	數
地方對栽培法に關する試験及調査	三		三二	
			六八	
				二三一

地方對土地管理法に關する試験及調査  
地方對病害蟲に關する試験及調査  
計

三 | |

三二 | |

七三 | 四

二七六 | 四二

104

### 第三指 導

#### 一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、其他の爲、場員の出張せるは一五回四八日なり。

#### 二 質疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

#### 三 參 觀 人

參觀人總數 六五四名

#### 四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種 類	配 付 數 量	種 類	配 付 數 量
燕 麥	二・〇五〇 <sup>石</sup>	菜 菔	〇・一〇五
小 麥	〇・〇五七	イ	〇・〇〇七
小 豆	〇・〇三六	麥	〇・〇一〇

104

## 美瑛農事試作場

當場に於ては北海道農事試験場本、支場に於て得たる試験成績を基礎とし、之を當地方に實地應用して當業者に範を示すべき事業、即ち模範經營を施行し、其の他農事指導に力を注ぎ餘力を以て地方主要農作物に關する特殊試験を行ひたり。其の概要左の如し

### 第一 模範經營

本經營は開始第一年目にして、其の目的當地方に適する合理的經營法を立案し之を實地農家をして經營せしめ漸次改善を加へ地方的模範農場たらしめんとするにありて、其の組織は販賣作物を主とし傍ら自家食糧作物を栽培する畑穀經營なり。本年は經營者に事故を生じたる爲、經營上多少遺憾の點あるも亞麻、豌豆、小麥、甜菜、馬鈴薯、蕎麥等の各種作物共に氣候不順なりしにも拘はらず相當の成績を示し地方農家を裨益せしところ尠からざりき。

### 第二 試験及調査

・國費試験機關に於て得たる試験成績にして之が地方的應用上更に證明的試験の必要あるものに對して之を行ひたり。本年施行せる試験及調査の概要左の如し

試験及調査の種類	種畑		區	
	種	畑	區	作
地方對栽培法に關する試験及調査 地方對土地管理法に關する試験及調査 計	二五	一一		二五七
	三六	一一		一一〇
				三六七

### 第三指 導

#### 一 講習講話、其他

講習講話、實地指導、採種圃監督、品評會審査等のため場員の出張せるは一七回七三日なり。

#### 二 質疑 應 答

農業技術の各般に互り書面又は口頭を以て質疑せるものに對し懇切に應答せり。

#### 三 參 觀 人

參觀人總數 一、一五九名

#### 四 種 苗 配 付

本年配付せる種苗の種類及數量左の如し

種 類	配 付 數 量	種 類	配 付 數 量
小 麥	〇・〇九〇	裸 麥	〇・一一五
燕 麥	〇・三九五	大 豆	〇・〇七〇
小 豆	〇・一七〇	玉 蜀 黍	〇・〇一〇
馬 鈴 薯	〇・一七〇	赤 豆	〇・〇一〇
コ ン 貝 子	〇・九四〇	サ ン ド 貝 子	〇・三九〇

## 原種圃及採種圃

### 一 米、麥、小麥原種圃

本年は水稻にありては第五期、麥類にありては第四期原種配付計畫の第三年目に屬し、水稻外四作物、二二品種を栽培増殖し、之を市町村農會に對し原種として配付せんとす。其の種類及生産數量左の如し

種類別	品 種	數	栽培反別	生産數量	配付豫定數量
水稻	水 稻	一五	二〇・〇九	三八・四四四	三六・六〇八
春播小麥	春 播 小 麥	二	六・三八	五・三二〇	三・七三一
秋播小麥	秋 播 小 麥	一	三・九八	五・一〇〇	二・九一〇
裸麥	裸 麥	二	一四・三三	一四・七八〇	八・七八七
燕麥	燕 麥	一	六・八一	一七・五〇〇	一一・八三二

以上の生産配付を行ふと共に原種の配付状況並に實地生育状況を調査し、以て事業上の參考に供すると共に採種圃經營上の指導を行はんが爲場員の出張せるは二回一八日一六箇所なり。

### 二 雜穀馬鈴薯原種圃

本年は第四期原種配付計畫第三年目に屬し、大豆外二作物一四品種を栽培増殖し、之を市町村農會採種圃に對し原種として配付せんとす。其の種類及生産數量左の如し

種類別	品種數	栽培反別	生産數量	配付豫定數量	摘	要
大豆	八	一七・二四反	一一・七三四石	一〇・〇三三石		
綠肥作物 (コンモンベッチー一號)	一	二・六七	一・二〇〇	二・二三七		不足分は前年産の残り を以て補充する見 込なり
馬鈴薯	五	一五・一〇	三、四六六・七七五	二、七六〇・〇〇〇		

### 三 菜種採種圃

本事業は本年より開始せるものにして、菜種優良品種の普及を圖らんが爲、昭和六年より同八年に至る三箇年間を第一期優良品種配付期間とし毎年二町三反歩宛の採種圃を設け、三箇年を以て菜種作付總面積の三分の一に要する種子量の生産並に配付を行はんとす。其の種類及生産數量左の如し

種類別	品種數	栽培反別	生産數量	配付豫定數量
春播菜種	一	三・〇〇反	二・六五〇石	一・七四〇石

## 採種圃監督

市町村採種圃の經營に對し指導監督を行はんが爲左記の通り場員を出張せしめたり。

出張用務	出張回数	出張日數	指導箇所數
採種圃指導監督	三	三一	二九

以上の外町村農會、技術員研究會、農産物検査員講話會並に燕麥多收穫品評會等に對し農林技師を四回一五日出張せしめたり。而して各出張の機會に主要農作物品種の適否に關する委託試験の監督又は品種の分布狀況を調査し、各地方に普及せしむべき適品種を査定し或は配付品種の特性を説明し其の普及の促進に努めたり。而して本道に於て採種圃を經營する市町村數は二一四箇所、其の經營總反別一〇八町七反三畝步にして、之が種類別經營反別を示せば左の如し

種類別	經營反別	種類別	經營反別
水稻	二七四・二反	大豆	二三二・〇反
秋播小麥	一三二・一	綠肥作物 (コンモンベッチー一號)	九二・五
春播小麥	六一・一	馬鈴薯	七七・二
燕麥	六八・六	計	一〇八七・三
	一四九・六		



## 原蠶種製造

一一四

本事業は本道に於ける蠶種製造者に原蠶種を供給するにありて、前年に繼續し、本年に於て掃立たる蠶品種は一化性支那種二、同歐洲種二、二化性日本種一、同支那種一品種にして、其の製造蛾數三、九七四蛾にして、内三、一三四蛾を配付用に供せんとす。

尙、原蠶種製造に供せる餘剰を以て春蠶及夏秋蠶用普通蠶種七五枚を製造配付用に供せんとす。

## 模範果樹園（渡島支場）

本事業は果樹園經營上の範を實地に示すと共に其の收支を明にして本道果樹園藝の振興に資せんとするにありて、前年に繼續し、渡島支場に於て苹果、和梨、櫻桃、葡萄等を栽培せるの外、是等果樹間隙を利用して蔬菜或は小果樹の栽培を行ひたり。而して本年は稀有の氣候不順に禍せられ果樹にありては一般に生育不良にして着袋當時の豫想に比し著しく收量を減じ、間作物にありてもパースニップを除きては一般に收量少なく、且、主作物並に間作物を通じ價格下落のため著しく収益の減少を示せり。

一一五

### 農林省委託水稻新品種育成試験（上川支場）

本試験は農林省指定試験にして、本年は第五年目に属し、其の目的は高緯度及寒冷地帯に適する水稻新品種を育成せんとするにあり。而して本年の稲作期間の天候は極めて不順なりしを以て試験遂行上支障を生じ遂に所定の設計を變更するの餘儀なきに至れるも、一面、耐寒性品種育成上参考に資すべき資料を得たるもの尠からざりき。

本年施行せる試験の概要左の如し

試験名	交配組合せ数	系統又は品種数
低溫地栽培による交配用品種選定試験	二八	一四
交配操作	二六	
雜種第一代養成	四一	
雜種第二個體選抜試験	三九	九二二
雜種第三代系統及個體選抜試験	三二	五六三
雜種第四代以後系統育成試験		

以上の外、低溫地栽培による未固定系統生産力検定試験、低溫地栽培による新品種決定試験、交配用母本栽培、播種期の出穂期並に成熟期に及ぼす影響に關する調査を行ひたり。

### 農林省委託小麥地方的試験（本場及北見支場）

本試験の目的は收量多く品質優良にして、且、赤銹病に對する耐病性強き優良品種を育成せんとするにあり。本年施行せる試験の概要左の如し

#### イ 本 場

##### 一 秋 播 小 麥

試験名	供試品種又は交配組合せ数	栽植個體又は系統数
品種特性調査及保存	一八四	
人工交配試験	一二九	
交配操作	二一	
雜種第一代養成	一七	五三九
雜種第二個體選抜試験	一八	一七、一〇四
雜種第三代系統及個體選抜試験	一五	一八九
雜種第四代以後系統育成試験	二八	一三五
未固定系統生産力検定試験	一五	
新品種決定試験		

##### 二 春 播 小 麥

試験名	供試品種又は交配組合せ数	栽植個體又は系統数
品種特性調査及保存	一六〇	
人工交配試験	一一八	
雑種第一代操成	二二	
雑種第二個體選抜試験	一八	
雑種第三個體選抜試験	一〇	一六、三七九
雑種第四個體以後系統選抜試験	一二	一七、七
未固定系統生産力検定試験	二八	二二、三
新品種決定試験	〇	

以上の外、秋播小麦冬枯防止を目的とする適應品種決定及栽培法改良試験を行ひたり。

### 北見支場

#### 一 秋播小麦

試験名	供試品種又は交配組合せ数	栽植個體又は系統数
人工交配試験	二一	
未固定系統生産力検定試験	五六	
新品種決定試験	一五	

#### 二 春播小麦

試験名	供試品種又は交配組合せ数	栽植個體又は系統数
品種特性調査及保存	二六	
人工交配試験	一五	
未固定系統生産力検定試験	〇五	
新品種決定試験	一〇	

以上の外、秋播小麦冬枯防止を目的とする適應品種決定及栽培法改良試験を行ひたり。

昭和十一年二月十日印刷  
昭和十一年二月十五日發行

北海道農事試驗場

札幌郡琴似村

長野市岡田町一七六

印刷者 田 中 彌 助

長野市岡田町一七六

印刷所 大日本法令出版株式會社

142  
801

終